

全	全	全
五	四	三
日	日	日
擬	全	全
賞	上	上

百九十四

第二 審査法

審査法ハ主トシテ現時世ニ行ハル、普通ノ方法ニ基ツキタレトモ多少改正スヘキ點アルヲ認メタルヲ以テ二三項目ノ加除訂正ヲナセリ其主ナルモノヲ擧クレハ左ノ如シ

- (一) 春蠶繭ト夏秋蠶繭(四化蠶繭ヲ含ム)トノ付點法ヲ異ニセルコト
- (二) 評價ノ項目ヲ削除セルコト
- (三) 織度ノ滿點範圍ヲ廣クシ且其太、細ニ過クルモノハ全然排斥ノ方針ヲ取りタルコト

春蠶繭ト夏秋蠶繭若クハ四化蠶繭トハ等シク蠶繭ナリト雖其本來ノ性質各全シカラサルモノアルカ故ニ全一ノ方法ト全格ノ律トヲ以テ付點スルハ穩當ナラサルノミナラス之ヲ區別セサレハ後者ハ到底前者ト相比肩シテ立ツコト能ハサレハナリ是故ニ審査法中肉眼鑑定ノ第四糸量、器械検査ノ第一絲尺第二織度ノ三項目中ニ各夏秋蠶繭(四化蠶繭ヲ含ム)ノ一項ヲ特ニ加ヒタリ

從來世ニ行ハレタル繭審査法中ニハ殊ニ評價ノ一項ヲ設クルヲ例トセルモ元來評價ナルモノハ繭全体ノ品位ヲ綜合シテ評定スルモノナレハ色澤形狀緊緩絲量等ノ合計點ハ即チ所謂評價點ト見做スヘキモノナリ

ノニシテ相重複スルノ嫌アリタレハナリ

織度ノ細太ハ製絲上重大ノ關係アルモノ、一ナレトモ從來ノ如ク狭キ滿點範圍ヲ設ケテ上下ノ得點ヲ遞減スルトキハ現時ノ製絲業ニ於テ實際上賞賤ノ必要ナキ範圍ニ在ルモノニシテ尙其得點數ニ大差ヲ生スルコトアリ且此法ニ據ルトキハ不適當ニ太キモノ及細キモノニテモ尙相當ノ付點ヲ得ルニ至ルヲ以テナリ其審査法ハ即チ左ノ如シ

繭審査法

繭ノ審査ハ肉眼鑑定器械検査ノ二トス

第一 肉眼鑑定

- (一) 色澤 固有ノ色澤ヲ損セス齊一ナルモノヲ最上トシ之ニ反スルモノヲ不良トシ左ノ付點ヲナス
 - 最上 三〇點
 - 最下 零點
- (二) 形狀 其種類固有ノ形狀ヲ具ヘ大小不全ノ差ナク且製絲上適當ト認ムルモノヲ最上トシ之ニ反スルモノヲ不良トシ左ノ付點ヲナス
 - 最上 三〇點
 - 最下 零點
- (三) 緊緩 繭層ノ組織均一ニシテ硬軟其宜シキニ適シタルモノヲ最上トシ之ニ反スルモノヲ不良トシ左ノ付點ヲナス

繭審査報告

百九十五

最上 三〇點

最下 零點

(四)絲量 繭層ノ厚薄解舒ノ難易ヲ熟察シテ生絲量ノ多少ヲ考定シ左ノ付點ヲナス

春蠶繭ニアリテハ一升ニ付キ十匁ヲ零點トシ以上一分ヲ増ス毎ニ一點ヲ加フ

夏秋蠶繭ニアリテハ一升ニ付キ八匁ヲ零點トシ以上一分ヲ増ス毎ニ一點ヲ加フ

(五)殺蛹 殺蛹ノ時期方法其宜シキニ適ヒ繭質ヲ損セズ蛹体異狀ナキモノヲ最上トシ之ニ反スルモノヲ不良トシ左ノ付點ヲナス

最上 二〇點

最下 零點

(六)貯繭 貯蔵ノ方法良好ニシテ繭質ヲ損傷セズ微菌ノ寄生ナキモノヲ最上トシ之ニ反スルモノヲ不良トシ左ノ付點ヲナス

最上 二〇點

最下 零點

第二 器械検査

(一)絲尺 繭三個ヲ繰リテ其絲長ヲ平均シ左ノ付點ヲナス

春蠶繭ニアリテハ四百回ヲ零點トシ以上十回ヲ増ス毎ニ二點ヲ加フ

夏秋蠶繭ニアリテハ三百五十回ヲ零點トシ以上十回ヲ増ス毎ニ二點ヲ加フ

(二)繰度 繭三個ヲ繰リテ其繰度ヲ平均シ左ノ付點ヲナス

春蠶繭ニアリテハ二デニール五分乃至三デニールノモノヲ最上トシ之ニ三十點ヲ付シ上下共ニ一分ノ差アル毎ニ二點ヲ減シ二デニール以下ノモノ及四デニール以上ノモノハ零點トス

夏秋蠶繭ニアリテハ二デニール二分乃至二デニール五分ノモノヲ最上トシ之レニ三十點ヲ付シ上下共ニ一分ノ差アル毎ニ二點ヲ減シ二デニール以下ノモノ及四デニール以上ノモノハ零點トナス

(三)類節 繭三個ヲ繰リテ二百回目ノ百回ノ間ニ有スル類節ノ多少ヲ檢シテ左ノ付點ヲナス

類節ナキモノハ三十點ヲ付シ類節アルモノハ一個ニ付一點ヲ減ス

(四)切斷 繭三個ヲ繰リ切斷ノ有無ニ依リテ左ノ付點ヲナス

切斷ナキモノハ三十點ヲ付シ切斷アルモノハ一切斷毎ニ三點ヲ減ス

而シテ審査ハ第一審査第二審査第三審査(比較審査)ノ三回反覆シテ之ヲ行ヒタリ即チ第一審査ニハ出品物ノ全体ヲ審査シ第二審査ハ第一審査ニ於テ優等ノ成績ヲ得タルモノ若干ヲ撰抜シ更ニ精密ナル審査ヲ行フテ肉眼審査點ヲ定メ器械審査點ヲ併セ其得タル合計點ノ順序ニ依リ更ニ優等品ヲ撰抜シテ第三審査ヲ行ヒ茲ニ始メテ其優劣ヲ確定セリ

付點ノ方法ニハ審査員各自ノ投票ニ據ルモノト合議ノ上付點スルモノトノ二アリテ孰レモ一得一失ヲ

免カレサレトモ今回ハ合議ノ制ヲ採用セリ蓋シ互ニ各自ノ意見ヲ聞ハシタル上評決セルモノハ最も正確ニ近キモノナリトスヘケレハナリ

凡審査上ニ於テ當局者ノ最も慎重ノ考慮ヲ要スヘキハ付點スヘキ各項目ノ輕重殊ニ肉眼審査點ト器械審査點トノ比率如何ニ在リトス而シテ肉眼ノ鑑定ハ器械ノ検査ニ比シ其基準不確定ニシテ審査員ノ熟否及嗜好ノ如何ニ依リ正鵠ヲ失シ易キ場合多キカ故ニ理論上ニ於テハ器械審査點ニ重キヲ置クヲ以テ可ナリトスヘシ然レトモ器械検査ノ方法ニシテ尙完全ノ域ニ達セサルコト今日ノ如キ場合ニアリテハ却テ意外ノ誤謬ヲ生シ易スク其結果或ハ老練者ノ鑑察ニ劣ルコト亦少ナカラス茲ヲ以テ今回ノ審査法ニ於テハ兩者ノ總點數略々相匹敵シテ輕重ナカラシムコトヲ期セリ

現今行ハル、繭器械的審査ノ方法ハ其各種ノ項目ニ亘リテ精密ナルコト蓋シ他品審査法ニ比シ多ク遜色ナカルヘク検査ニ供セル數顆ノ繭ヲ相比較スル上ニ於テハ決シテ遺憾ナシト雖モ現時ノ如ク出品物全体ノ中ヨリ僅ニ二三顆ノ繭ヲ取りテ檢スルニ止マルニ於テハ假令一定ノ方針ヲ以テ各種中ノ良繭ヲ撰出スルモ未タ以テ全豹ヲ測ルノ規トナスニ足ラサル場合少カラス之レ蓋シ共進會品評會等ニアリテハ概ネ時日及經費ニ制限アルカ故ニ其多數ヲ検査スル能ハサルノ事情アルニ職由スルモノナルヘシト雖然レトモ能ク精確限リナキノ審査ヲ遂ケ以テ共進會ナルモノ、目的ヲ達シ満足ノ好果ヲ收メントスルニ方リテハ器械検査ニ付スヘキ繭顆數ヲ増加スルカ如キハ必ス其重ナル事項ノ一タラスシハアラス

今將來改善ヲ要スヘシト信スル一二項目ト併セ之ニ關スル卑見ヲ述ヘテ參考ニ供セシ

(一) 絲質検査ノタメニ繰絲スル繭ハ一點中十顆以上トスルコト

(二) 製絲試験ヲ行フコト

(三) 生絲量ノ多少ヲ定ムルニハ繭ノ容量ニ據ラスシテ顆數ニ據ルヘキコト

從來絲質試験ノ爲ニ繰絲スル繭ハ概ネ三顆ヲ超ヘサルヲ例トセリ今出品繭數量ノ規定ヲ一升ト假定セハ僅カニ其百分ノ一内外ノ少數ニ過キサルカ故ニ全体ノ優劣ヲ定ムルノ基準トシテハ誠ニ不十分ナルノ憾ヲ免カレサルナリ此憾ナカラシメンニハ一點中少クモ十顆以上ノ繭ヲ試験スルヲ要セン

生絲量ノ多少ハ繭ノ價值ヲ定ムル最重要ノ要件ナリ從來之レカ付點ヲ單ニ肉眼上ノ推定ニ委ネタルハ審査上ノ欠陥ナリト謂ハサルヘカラス且其得點ノ比太々輕キニ過キルカ如シ又數顆ノ繭層ヲ秤量シテ推算スルノ方法アリト雖モ生絲量ノ多少バ決シテ繭層量ノ多少ニノミ關スルモノニアラサルカ故ニ未ダ深ク信頼スルニ足ラス共進會ニ於テ製絲試験ヲ行フカ如キハ實際上甚々困難ニシテ一ノ空想ニ過キサカ如キ觀アリト雖數十人取りノ器械製絲場ヲ有スル土地ニ在リテハ決シテ難事ニアラサルヘキヲ信スルナリ

絲量ノ多少ヲ定ムルニハ先ツ繭ノ容量ニ對スル生絲量ノ多少ヲ算出シ以テ付點ノ基準トスルハ從來ノ慣例ナリト雖甚々穩當ヲ欠クモノト謂ハサルヘカス何トナレバ假令其容量空ニナリトスルモ繭ノ大小

ニ依リテ其類數ニ大差アルカ數ニ繭形ノ過小ナルモノハ其適度ナルモノニ比シ却テ多數ノ得點ヲ得ルノ奇觀ヲ呈スルノ實例少カラサレハナリ故ニ理論上ニ於テハ寧ロ一頭ノ蠶兒ノ吐出セル絲量ノ多少ニ據ルヲ以テ正當ナリトスヘシ然レトモ若シ單ニ繭類數ニノミ偏倚スルトキハ前ノ例ニ反シ過大厚層ノ繭ハ常ニ優勝ノ地歩ヲ占ムルニ至ルヘク過大厚層ノ繭モ亦斯業大体ノ利害ヨリ打算シテ獎勵スヘカラサルモノナレハ先ツ適當ナル範圍ニ於テ一升ニ對スル公定類數ヲ評決シ其範圍内ニ在ルモノハ即チ其類數ニ對スル絲量ニ據リテ付點シ右ノ範圍ヲ逸スルモノハ大小共ニ排斥スルノ方針ヲ取ルヲ以テ可ナリト信スルモノナリ

第三 審査員

繭審査員トシテ各府縣ヨリ撰出セラレタルモノハ左ノ五名ニシテ孰モ斯業上及審査上經驗ヲ有セル者ナルカ故ニ審査上過誤欠失等ノ患ナカリシノミナラス世間或ハ耳ニスルコトアル地方的感情ニ制セラレタルノ跡モナク公平誠實ヲ保ツコトヲ得タルハ小官ノ最モ喜ヘル所ニシテ又竊ニ本會ノ爲メニ慶セル所ナリトス

- 岐阜縣 中川 源次郎 (養蠶家)
- 三重縣 山村 作左衛門 (製絲家)
- 山梨縣 齋藤 道太郎 (養蠶家)

- 静岡縣 山本 庄次郎 (全上)
- 愛知縣 津田 淳 (全上)

第四 出品繭

本會ノ出品繭ハ一千二百二十點此出品人員ハ一千百人ニシテ之ヲ府縣別ニ計算セハ左表ノ如ク岐阜縣最モ多數ヲ占メ全數ノ五割三分以上ニ達シ山梨縣ノ一割五分餘之ニ次キ三重愛知ノ二縣又之レニ次キ静岡縣ハ最モ少ナク六分餘ニ過キス

(一) 繭出品點數并ニ人員表

縣名	出品點數	出品人員	總數百ニ對スル比例
岐阜縣	六四八	五九八	五四、四
三重縣	一四四	一二六	一一、五
山梨縣	一八九	一六一	一四、六
静岡縣	七五	六七	六、一
愛知縣	一六四	一四八	一三、四
合計	一、二二〇	一、一〇〇	一〇〇、〇

繭ノ種類ハ春蠶種八十二、内本邦種七十三、支那種九、夏蠶種四、秋蠶種九、四化蠶種一、合計九十六種ノ多キニ達セリ僅々一千二百餘點ニ過キサル出品中殆ント百種ニ垂ントスル多數ニ及ヘルハ寧ロ驚

クヘキノコトナリト謂ハサルヘカラス然レトモ出品ノ點數ニ依リテ之ヲ觀察スルトキハ其大部分ハ又昔小石丸ノ二種ニシテ之ニ次ケル青熟白玉角又等ノ數者ヲ控除スルトキハ他ハ概ネ一二點乃至四五點ノ少數ヲ有スルニ過キス若シ夫レ改良又昔、黃金又昔、黃金又、又昔中巢等ノ又昔ニ於ケル青熟中巢中巢、金鷄青熟等ノ青熟ニ於ケル、大石丸、中石丸等ノ小石丸ニ於ケルカ如キ異名同種ト認ムヘキモノヲ前數者ニ合算スルトキハ之ヲ合計スルモ尙全數ノ一割ニ達セサル小數ニ過キサレモノナリ支那種ノ出品ハ四十餘點ニ達セルモ夏秋蠶及四化蠶ハ之レヲ總計スルモ尙二十餘點ノ小數ニ過キサリシ即チ左表ノ如シ

(二) 種類名稱及其點數表

名稱	岐阜縣	三重縣	山梨縣	静岡縣	愛知縣	合計
又昔	二六四	六三	二二	一六	五二	四一七
改良又昔	二	一				三
黃金又昔					三	三
黃金又					五	五
又昔中巢					一	一
改良又中巢					一	一
合計	二六六	六四	二二	一六	五二	四一七

名稱	大	中	小	改良小石丸	中石丸	大石丸	石中丸	信濃丸	都丸	連合丸	白銀丸	井筒丸	京丸	長丸	光明丸	光澤丸	青熟丸	金鷄青熟	青熟中巢	中巢	
大	二二																				
中	一四	七																			
小			七																		
改良小石丸				二																	
中石丸					二																
大石丸						二															
石中丸							二														
信濃丸								二													
都丸									二												
連合丸										二											
白銀丸											二										
井筒丸												二									
京丸													二								
長丸														二							
光明丸															二						
光澤丸																二					
青熟丸																	二				
金鷄青熟																		二			
青熟中巢																			二		
中巢																				二	
合計	二二	一四	七	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二

調査報告

大 大 青 青 堅 小 小 飛 白 寶 白 良 宮 明 日 宮 富 錦 又 蝦
平 察 黑 玉 龍 作 金 青 白 龍 玉 鳳 帛 帛 白 白 白 綾 錦 錦

一 一 一 二 一 一 三 一 一 一 一 一 一 一

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

二百五

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

泉 奧 中 綾 白 白 中 龍 白 銀 櫻 大 石 姫 白 赤 赤 角 白 改
田 野 錦 錦 錦 錦 錦 鶴 均 白 龍 白 姫 姫 姫 蠶 熟 龍 熟 又 玉 巢

二 六 三 一 一 九 一 三 三 八

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

二百四

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

右表ニ依リ各府縣種類名稱數及其點數ヲ表記スレハ左ノ如シ
 調査報告

角又 四化蠶合計	秋蠶合計 無角中豐不白白玉銀 名又巢玉姬玉龍稀白	夏蠶合計 無白白又 合計名錦昔
	二	三
	一	
	三	
	九 一 二 五	二
	一 五	五

白 玉	支那種合計 支那種 大圓頭 四川省種 嶺南種 杭州種 紹興種 余杭種 白陽種 清陽種	春蠶合計 無名 天蠶 日蠶
一	一 六 七	六 二 七 一 二 三
	○	一 四 三
	九 九	一 八 〇
	三 一	六 八 一
一	一 三 三 一 六 三	一 三 九
二	四 二 〇 二 一 六 三 一 六	一 二 五 七 二 二 三

(三) 種類名稱數并點數表

縣名	春蠶種		夏蠶種	秋蠶種	四化蠶種	計
	本邦種	支那種				
岐阜縣	六四七	一四五	三三			五五
三重縣	一四一	一四一				一八
山梨縣	一八〇	三九一				一五
静岡縣	二八二	三三三				二八
愛知縣	三二六	四三三				二八
通計	一五七三	四九三	五四二			二二〇六

第五 審査ノ成績

(一) 肉眼審査

審査ハ前項ニ記載ノ如ク第一審査第二審査及第三審査(比較審査)ノ三回之ヲ反覆シ以テ其優劣ヲ判定セリ而シテ第一審査ノ成績ニ依リ撰抜シテ第二審査ニ付セルモノノ二百六十九點、第二審査ノ成績ニ依リ撰抜シテ第三審査ニ付セルモノノ五十點ナリ其各審査ノ成績ハ以下順次記載スル所ノ如シ
 第一審査ニ於テ合格セル點數ハ七百八十一ニシテ出品總數ニ對シ七割二分八厘ナリ之ヲ縣別ニ觀察セハ三重縣ハ八割七分五厘ノ多數ニシテ最モ優等ノ地ヲ占メ山梨静岡ノ二縣之ニ次キ愛知岐阜ノ二縣ハ總平均數ヨリ下レリ而シテ其平均得點數ニ於テモ亦右ト全様ノ成績ヲ示セリ即チ左表ノ如シ

(四) 第一 審査成績表

縣名	審査點數	合格點數	不合格點數	全上百分比例		平均得點數
				合格	不合格	
岐阜縣	六四八	三三二	三二六	五二、二	四八、八	九五、一
三重縣	一四四	一二六	一八	八七、五	一二、五	一〇六、三
山梨縣	一八九	一五三	三六	八一、〇	一九、〇	一〇五、一
静岡縣	七五	五六	一九	七四、七	二五、三	一〇五、一
愛知縣	一六四	一一四	五〇	六九、五	三〇、五	一〇二、一
合計	一、二二〇	七八一	四三九	七二、八	二七、二	一〇二、七

右審査ノ際ニ於テ菌微寄生ノ有無ヲ調査セルニ其寄生ヲ受ケタルモノ平均二割五分餘ノ多數ニ達シ之ヲ縣別ニ觀察セハ山梨縣ハ最モ多ク三割五分ニ達シ愛知岐阜ノ二縣之レニ次キテ多ク三重静岡ノ二縣ハ最モ少ナカリシ即チ左表ノ如シ

(五) 微菌寄生ノ有無調査表

縣名	寄生ナキモノ	寄生			計	出品點數ニ對スル百分比例	
		甲	乙	丙		寄生ナキモノ	寄生アルモノ
岐阜縣	四九六	五九	五六	三七	一五二	七六、五	一三三、五
三重縣	一一八	二一	五	〇	二六	八一、九	一八、一
山梨縣	一一〇	四七	二一	一〇	六九	六三、五	三六、五
通計	一、二二〇	一七七	一〇二	一〇	二九六	二四、九	七五、一

調査報告

靜岡縣	六二	三八	二六	〇	一四	八一、三	一八、七
愛知縣	一一八	三三	一一	二〇	四六	七二、〇	二八、〇
合計	九二三	一六八	九九	四〇	三〇七	七四、八	二五、二

備考 本表中甲乙丙ノ符合ハ寄生微菌ノ多少ニ依リ區別セルモノナリ即チ甲ハ蛹体ニノミ寄生アル

モノ乙ハ蛹体及繭ノ内層ヲ侵セルモノ丙ハ最モ甚クシク繭ノ外層ニマテ及ホセルモノナリ

第二審査ニ付セルモノハ前記ノ如ク各縣別ニ就キ第一審査ニ於ケル優等品ヲ撰拔セルモノニシテ其數

二百六十九點ナリ而シテ平均上最モ優等ノ成績ヲ得タルモノハ第一審査ト全シク三重縣ニシテ靜岡縣

之ニ次キ岐阜愛知ノ二縣ハ最モ劣レルコト左表ノ如シ

(六) 第二 審査成績表

縣名	審査點數	合格點數	不合格點數	最高點	最低點	平均點
岐阜縣	一一二	一一三	九	一一五	八一	一〇一、三
三重縣	三六	三六	〇	一一三	九四	一〇六、一
山梨縣	四八	四八	〇	一一六	八五	一〇五、三
靜岡縣	一九	一九	〇	一一二	一〇一	一〇六、〇
愛知縣	四四	四一	三	一一三	八八	一〇四、四
合計	二六九	二五七	一二	一一五	八一	一〇四、六

以上第一第二審査ノ成績ヲ較査審案シ較差ノ大ナルモノ若クハ必要アリト認メタルモノハ更ニ再審査ヲ行フテ肉眼審査點ヲ定メ之ニ下記ノ器械審査點ヲ加算シ以テ最高ノ點數ヲ得タルモノヨリ順次左ノ五十點ヲ撰拔シ第三審査即チ比較審査ヲ行ヒタリ此審査ノ成績ハ前二回審査ノ成績ト稍々其趣キヲ異ニシ靜岡縣ハ平均百十九點四分ニシテ最モ優位ヲ占メ三重縣ノ百十八點五分山梨縣ノ百十八點四分之ニ次キ他ノ二縣ハ孰レモ總平均點數ヨリ下レリ即チ左表ノ如シ

(七) 第三 審査成績表

縣名	審査點數	最高點	最低點	平均得點
岐阜縣	一一八	一二二	一一〇	一一六、一
三重縣	一一三	一二七	一〇八	一一八、五
山梨縣	一三八	一二三	九八	一一八、四
靜岡縣	一〇八	一二四	一一一	一一九、四
愛知縣	一〇〇	一二五	九九	一一五、四
合計	五〇	一二五	九九	一一七、一

(二) 器械審査

器械審査ノ成績ハ以下諸表ニ詳記セル如ク

(イ) 絲長ニ在リテハ比例上多クノ長キモノヲ出セルハ(第十表)三重縣ノ七百回以上一點ヲ除クトキハ

静岡縣ニシテ愛知縣之ニ次キ三重縣ハ最モ劣レルカ如シト雖モ全体ノ平均絲長(第八表)ニ於テハ之ニ反シ三重縣遙カニ他ノ四縣ニ勝リ愛知山梨ノ二縣之レニ次キ静岡岐阜ノ二縣最モ劣レリ

口織度ニ在リテハ其平均ノ成績ハ各縣共ニ二デニール五分乃至二デニール八分ノ間ニ在リテ優劣ヲ評シ難シト雖トモ前項審査法ニ照シ滿點範圍ニ在ルモノト否ラサルモノトヲ區別シテ比較スルトキハ又多少ノ優劣ナキ能ハス即チ岐阜ハ滿點範圍ニアルモノ百點中七十三點七分ニシテ最モ多數ヲ占メ太、細、ニ過クルモノ亦最モ少ナク三重縣ハ太キニ失スルモノ各縣中最モ多ク細キニ過クルモノハ中位ニ在リテ中庸ヲ得タルモノハ中等以下ニ位セリ山梨縣ハ太キニ失スルモノ最モ少ナシト雖モ細キニ過クルモノ亦最モ多クシテ其中庸ヲ得タルモノハ中等ニ位セリ静岡縣ハ太細共ニ多クシテ中庸ヲ得タルモノハ最モ少ナク愛知ハ概シテ中等ノ成績ヲ示セリ要スルニ本項ニ於テハ岐阜縣最モ良好ノ成績ニシテ愛知山梨三重静岡ノ各縣順次之ニ次ケルモノナリ(第十一表第十二表參看)

(ハ) 額節ノ最モ少ナキハ愛知縣ニシテ三重山梨ノ二縣之ニ次キ岐阜縣ハ最モ多シ(第十三表參看)

(ニ) 切斷ノ最モ少ナキモノハ愛知山梨ノ二縣ニシテ静岡岐阜ノ二縣ハ最モ多シ(第十四表參看)

(八) 絲長表 (其一)

縣名	検査點數	最長		平均		最短	
		三	二	三	二	三	二
岐阜縣	三三三二	六五〇	三五〇	四五〇	四六三	三三三	二二二
三重縣	一一二六	七三〇	三三二	四九六	四九六	三三二	二二二
山梨縣	一一五三	六四〇	三四二	四七一	四七一	三四二	二二二
静岡縣	五六	六三七	三七七	四六九	四六九	三七七	二二二
愛知縣	一一四	六六〇	三五七	四七五	四七五	三五七	二二二
合計	七八一						

絲長ノ總平均ハ右表ノ如シ尙絲尺ノ長短ニ依レル點數ノ多少及其百分比例ヲ觀察セハ左表ノ如シ

(九) 絲長表 (其二)

縣名	七百回以上		六百回以上		五百回以上		四百回以上		合計
	八	七	六	五	四	三	二		
岐阜縣	〇	四	七二	二二二	二二二	二二二	二二二	三三三	
三重縣	〇	〇	五八	六六	六六	九	一	一一六	
山梨縣	〇	二	四二	一〇〇	一〇〇	〇	〇	一五三	
静岡縣	〇	二	一一	四〇	四〇	三	〇	五六	
愛知縣	〇	三	二七	七九	七九	五	〇	一一四	
合計	一	二	二〇	五二七	五二七	四一	一	七八一	

(十) 全上検査點數ニ對スル百分比例表

(五) 切斷
調査報告

縣名	檢查點數	最多數	最小數	數平均	均
岐縣	三三二	三一	〇	〇	四、六
山梨縣	一一六	一三	〇	〇	四、二
靜岡縣	一五三	一七	〇	〇	四、四
愛知縣	一五六	一三	〇	〇	四、〇
平均	一一四	一七	〇	〇	四、三

(三) 額節

縣名	太		中		細		合計	平均織度
	太	中	細	太	中	細		
岐縣	一七	二四	七〇	五、一	七三、七	二一、二	二六、五	
山梨縣	一〇	八五	三一	七、九	六七、五	二四、六	二六、〇	
靜岡縣	四五	一〇五	四三	三、三	六八、六	二八、一	二六、四	
愛知縣	四八	三七	一五	七、一	六六、一	二六、八	二六、四	
合計	四四	五五〇	一八六	五、六	七〇、五	二三、九	二六、四	

(三) 織度表 (其二)

縣名	四、五以上	三、五以上	三、〇以上	二、五以上	二、〇以上	二、〇以下	合計	平均織度
岐縣	〇	一七	二四	六四	〇	六	三三一	二六、五
山梨縣	〇	九	八五	三〇	一	一	一二六	二六、〇
靜岡縣	〇	五	一〇五	四三	〇	〇	一五三	二六、四
愛知縣	〇	八	三七	一三	二	一	五六	二六、四
合計	一〇	四三	五五〇	一七六	一〇	七	七八〇	二六、四

(二) 織度表 (其一)

縣名	七百回以上	六百回以上	五百回以上	四百回以上	三百回以上	織線シ得サ	合計
岐縣	〇	一、二	二一、七	六九、九	六、九	〇、三	一〇〇
山梨縣	〇、八	〇	四六、〇	五二、四	〇、八	〇	一〇〇
靜岡縣	〇	一、三	二七、四	六五、四	五、九	〇	一〇〇
愛知縣	〇	三、六	一九、六	七一、四	五、四	〇	一〇〇
平均	〇、一六	一、七四	二七、六八	六五、六八	四、六八	〇、〇六	一〇〇

縣名	検査點數	最高點	最低點	平均點
岐縣	三三二	二二八	一三三	一九一、五
三重縣	二二六	一二七	一五二	九一、五
山梨縣	一五三	一三六	—	九八、三
靜岡縣	五六	—	—	—
愛知縣	一一四	—	—	—
平均	—	—	—	—

右器械審査ノ成績ニ依リテ得タル得點數ハ左表ニ記セル如ク岐阜縣ハ最高點最低點共ニ中位以上ニ在
 レトモ平均得點ハ最モ劣レリ三重縣ハ最低點ニ於テ稍劣レリト雖モ最高及平均點ニ於テハ最優位ヲ占
 メ山梨縣ハ最高最低共ニ下レルモ平均點ハ中位ニアリ靜岡縣ハ最高點最低點ハ最モ劣リ平均點モ亦岐
 阜縣ニ次キテ劣等ナリ愛知縣ハ最高最低共ニ中位以上ニアリ平均點ニ於テハ三重縣ニ次キテ第二位ヲ
 占メタリ

(五) 器械審査得點表

縣名	検査點數	最高點	最低點	平均點
岐縣	三三二	二二八	一三三	一九一、五
三重縣	二二六	一二七	一五二	九一、五
山梨縣	一五三	一三六	—	九八、三
靜岡縣	五六	—	—	—
愛知縣	一一四	—	—	—
平均	—	—	—	—

以上肉眼審査及器械審査ノ得點ヲ合計シ二百十點以上ヲ得タル優等品ヲ撰拔セルニ百四十三點ヲ得タ
 リ今之ヲ縣別ニ觀察スルトキハ三重縣ノ四十點最モ多數ヲ占メ山梨岐阜ノ二縣之レニ次キ愛知縣又之
 レニ次キ靜岡縣ノ十一點ハ最モ少數ナリ然レトモ其出品點數百ニ對スル比例ヲ調査スルトキハ大ニ其
 軌ヲ異ニシ三重縣ノ二十七點八分ニシテ多數ナルコト前者ニ等シキモ第二ニ位セルハ十九點ノ山梨
 縣ニシテ岐阜縣ハ最モ少ク僅カニ四點八分ノ少數ニ過キササルナリ即チ審査點ノ總成績ニ據リテ其優
 劣ヲ次第スルトキハ三重縣第一位ヲ占メ山梨愛知靜岡順次之ニ次キ岐阜縣最モ劣レルモノナリ其詳細
 ハ左ノ如シ

(六) 優等品縣別表

縣名	二四〇以上	二三〇以上	二二〇以上	二一〇以上	合計	出品點數ニ對スル歩合
岐縣	—	—	—	—	—	四、八
三重縣	—	—	—	—	—	二七、八
山梨縣	—	—	—	—	—	一九、〇
平均	—	—	—	—	—	—

調査報告

靜岡縣	一一	二二	二二	九〇	一一	二一	二一	二一	二一
愛知縣	一一	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二
合計	九	一一	二二	三三	四四	五五	六六	七七	八八

以上各審査ノ全成績ニ據リテ現品ノ優劣ヲ定メ後出品解説書ヲ調査シ其調査點ヲ併加シテ得タル點數ノ順次ニ依リテ賞格ニ入ルヘク決定セルモノ九十五點ヲ得タリ其等級別及縣別ハ左表ニ記セルカ如ク一點ノ一等品ハ遂ニ山梨縣ノ獲ル所トナリ三重縣ハ一等ヲ逸セルモノニ於テ最多數ヲ占メ裕ニ他縣ヲ壓シ靜岡愛知岐阜ノ三縣ハ何レモ二等ニ於テ各一點ヲ得タルニ止マレリ又出品點數ニ對スル歩合ニ在リテハ三重縣ハ最モ優位ヲ占メ百分ノ十七、四ノ多キニ達シ山梨靜岡ノ二縣ハ之ニ次キ愛知縣亦之ニ次キ岐阜縣ハ僅カニ百分三、六ニシテ最モ劣レリ

(七) 爾受賞表 (其一)

縣名	一等	二等	三等	四等	五等	六等	合計
岐阜縣	〇〇	一	二	〇	〇	〇	三
三重縣	〇	一	二	三	四	五	一五
山梨縣	一	二	三	四	五	六	二一
靜岡縣	一	二	三	四	五	六	二一
愛知縣	〇	〇	一	二	三	四	一〇
合計	一	五	一〇	一五	二〇	二五	九五

(六) 爾受賞表 (其二)

縣名	出品點數	受賞點數	出品點數百ニ對スル比例
岐阜縣	六四八	二二	三、六
三重縣	一四四	二五	一七、四
山梨縣	一八九	二四	一二、七
靜岡縣	七五	九	一二、〇
愛知縣	一六四	一四	八、五
合計	一、二二〇	九五	七、八

右賞格ニ入レル九十五點ニ就キ其種類ヲ縣別ニ調査セルニ左表ノ如キ結果ヲ示セリ即チ又昔ハ最多數ノ二十五點ニ達シ青熟ノ十四點之ニ次キ角又白玉ノ二種何レモ十點以上ヲ以テ之ニ亞ケリ中巢ノ八點小石丸ノ六點亦之レニ次ケルモノニシテ他ハ熟モ三點乃至一點ノ少數ニ止マレリ亦最モ多クノ優等品ヲ出セル種類ハ岐阜縣ニ在リテハ又昔角又、三重縣ニ在リテハ又昔白山梨縣ニ在リテハ青熟、中巢(此中巢ハ青熟ト全種類ナルカ如シ)靜岡縣ニ在リテハ特ニ多數ヲ占メタルモノナク愛知縣ニ在リテハ又昔等ナリ

(五) 受賞品種類別表

種類	岐阜縣	三重縣	山梨縣	靜岡縣	愛知縣	合計
爾別						
爾別						
爾別						
爾別						
爾別						
爾別						
爾別						
爾別						
爾別						

淨解舒ヲ損セルモノ若クハ乾燥貯藏ノ法ヲ誤リテ微菌ノ侵害ヲ受ケ固有ノ品質ヲ毀傷セルモノ甚タ多ク爲メニ原質良好ノ繭ナルニモ均ハラス優等ノ撰ニ洩レタルモノ甚タ少ナカラサリシ今回ノ共進會ハ時季恰モ養蠶前ニ際シ出品繭ハ總テ前年ノ收穫ニ係ルモノナルカ故ニ微菌寄生ノ多キ又已ヲ得サル事情ナリト云フヲ得ヘシト雖抑モ亦前途尙改良スヘキ點ノ甚タ鮮少ナラサルヲ知ルニ足ラン元來本邦養蠶家ハ概ネ生繭販賣ノ習慣ナルカ故ニ乾燥及貯藏上充分ノ經驗ト熟練トヲ有スル者少ナキノミナラス繭ノ品質ニ大關係アル簇中保護ノ疎慢ナルヨトハ爭フヘカラサル所ニシテ獨リ本會ニ於テ觀ルノミノ事實ニアラス誠ニ本邦蠶業上ノ通弊ナリト謂ハサルヘカラス

凡ソ蠶繭品質ノ良否絲量ノ多寡如何ハ蠶兒種類ノ良否桑葉品質ノ善惡若クハ飼育法ノ適否ニ依リテ岐ル又假令此等ノ點ニ欠クル所ナシトスルモ上簇中ノ保護其宜シキヲ得サルカ又ハ乾燥貯藏ノ法ニ於テ完キヲ得サレハ其固有ノ品質ヲ毀損スルコト甚タ大ナリ今審査成績ノ一端ニ據リテ直ニ品質不良ノ原因ヲ推論スル能ハスト雖モ當業者ハ須ク上記ノ三項ニ注意シテ可成優等ノ蠶繭ヲ得ンコトニ盡力スルト全時ニ蠶兒ノ上簇中ニ在リテハ極力濕氣ノ排除及空氣ノ流通ヲ計リ以テ自然ノ美質ヲ全フセンコト最モ緊要ナルヘシ彼ノ妄リニ收購額ノ多キヲ欲シテ飼育蠶兒ノ量ヲ過度ニ増加スルカ如キ飼育ノ手數ヲ省キ給養量ヲ節減シ若クハ厚飼ヲナスカ如キ或ハ夏秋蠶飼育ノ爲メ過度ニ桑葉ヲ採收スルカ如キハ共ニ蠶繭品質ノ改良上大ニ考慮ヲ要スヘキ事項ナラン而シテ此等諸事項ノ改良増進ニ欠陥ナク又扁重

扁輕ナク以テ適當ノ軌道ヲ逸セシメサランコトハ斯業經營ノ上ニ於テモ亦當業者ハ勿論指導獎勵ノ任ニ膺ル先覺者ノ將來深ク注意ヲ要スヘキ點ナラン
 審査ノ成績ハ前項既ニ詳記セルヲ以テ茲ニ再述スルノ要ヲ見スト雖モ今各縣出品繭ニ就キ略評セハ左ノ如シ

岐阜縣 岐阜縣ハ本邦有數ノ蠶業地ニシテ其產繭額ノ多キコト常ニ各府縣中五六ノ地位ヲ降ラス兼テ本會ノ主催縣タリ其出品點數ノ多キ全數ノ五割三分餘ニ達セルコト宜ナリト謂フヘシ其種類ハ又昔最モ多ク小石丸之ニ次キ青熟角又ノ二種又之レニ次ケリ其他名稱ノ數ハ甚タ多キモ其點數ハ誠ニ僅少ナルカ故ニ略一定ニ近キモノト謂フコトヲ得ヘシ然レトモ其品質ハ概ネ劣惡ニシテ賞格ニ入レルモノ僅々二十五點即チ出品點數ニ對シ百分ノ三餘ノ小數ニ止マリ五縣中最モ劣等ノ地ヲ免カレ得サリシ而シテ其重モナル欠點ハ多クハ繭層貧瘠ニシテ絲量ニ乏シキコトニ在レトモ寧ロ更ニ甚タシキハ簇中ノ保護及收購后ノ處置其宜シキヲ得スシテ固有ノ品質ヲ傷害セルニ在リ就中稻葉惠那二郡ノ如キハ殆ント微菌ノ寄生ヲ受ケサルモノナシト云フモ可ナルヘク搦斐加茂本巢ノ諸郡亦之ニ次キテ甚タ多カリシ山縣武儀大野吉城ノ諸郡ハ微菌ノ害前者ノ如ク甚タシカラサルモ原質概ネ不良ニシテ第一審査ニ於テ辛フシテ數點ノ合格品ヲ止メタルニ過キサリシ之ニ反シ郡上可兒ノ二郡及土岐郡ハ品位齊整良好ニシテ肉眼審査ニ於テハ不合格ニ歸セルモノ甚タ少ナク他縣ニ比シ敢テ遜色ナキ優等

品亦少ナカラサリシモ惜ムラクハ概シテ絲量及絲長ニ乏シク其他器械審査上ニ於テハ概ネ他ノ下風ニ俯スルノ成績ヲ示セルカ爲メニ遂ニ優勝ノ地ヲ占ムルコト能ハサリシ

三重縣 此縣ノ出品繭ハ重モニ又昔白玉ノ二種ニシテ青熟之レニ次キ他ハ殆ト數フルニ足ラス而シテ其成績ハ敢テ卓絶ノ優等品ヲ出サ、リシモ品質ハ概シテ良好齊整ニシテ劣惡ノモノ甚タ少ナク誠ニ改良ノ体ヲ得タルモノナリト稱スヘシ且乾燥貯藏等ノ處理モ亦其宜シキニ適ヒタルヲ以テ器械審査ノ成績ニ於テモ概ネ齊整佳良ナリシ是ヲ以テ其ノ受賞點數ハ出品點數ニ對シ一割七分四厘ノ多キニ達シ實ニ五縣中最モ優勝ノ地ヲ占メタルモノナリ唯惜ムラクハ繭形ノ稍小振ニシテ且短ニ失スルノ嫌アリタルコト之レナリ概シテ品質ノ佳良ナル割合ニ絲尺ノ長カラサリシハ之レカ爲メナランカ聞ク前回ノ共進會ニ於ケル此縣ノ出品繭ハ粗雜劣惡ニシテ其成績五縣中ノ最下位ヲ免カレ得サリシコト今回ノ岐阜縣ノ如キモノアリシト然ルニ今回此好成绩ヲ得タル所以ノモノハ當業者カ前回ノ失敗ニ鑑ミ大ニ改良ノ志想ヲ振作シテ之レカ實行ニ勵勉セルト及系統的共進會ノ必要ヲ感シテ之ヲ實行シ多クハ郡村共進會又ハ品評會ニ於テ優勝ノ評ヲ得タルモノヲ撰拔出品セルニ依ルモノナリト云フ果シテ然ラハ以テ他ノ蠶業トナスニ足ルモノト謂フヘキカ

山梨縣 山梨縣モ亦夙ニ蠶業ヲ以テ鳴ルノ地ナリ今回出品繭ハ青熟ノ種類最モ多數ヲ占メ小石丸之ニ次キ其他ハ又昔ノ二十二點稍多キノ外殆ト數フルニ足ラス五縣中最モ能ク一定セルモノナリ其出

品點數ハ岐阜縣ニ次キテ多ク其受賞點數ハ三重縣ニ次キテ多ク而シテ品質ノ佳良豐美ナルモノ多ク就中青熟種中ニハ優秀ノ逸品少ナカラス遂ニ今回ノ優勝旗ヲ握レルモノ又偶然ナラスト謂フヘシ然リト雖モ其全体ヲ通觀スルトキハ形狀ニ大小不同ノ差多ク其實質亦之ニ從ヒ區々不齊ニシテ一定セサルコト岐阜縣ニ次キテ他ノ三縣ニ劣リ且微菌ノ寄生ヲ受ケタルモノハ實ニ三割六分五厘ノ多キニ達シ五縣中最下ニ位セリ其他全体ノ成績熱レモ後進ノ三重縣ニ比シ一步ヲ輸セルハ遺憾ナリト謂フヘシ静岡縣 此縣ノ蠶業モ亦近時著明ノ進歩ヲナセリト稱セラル今回ノ出品繭ハ又昔白玉ノ二種最モ多數ヲ占メタルトモ種類ノ數二十八種ノ多キニ及ヒ割合上最モ雜駁ナルヲ示セリ然レトモ其品質ハ名稱ノ多キカ如ク繭ノ雜駁ナラス繭形稍長大ニシテ肉眼審査ノ成績ハ常ニ三重縣ニ次キテ山梨縣ト相伯仲セリ絲長絲量敢テ乏シカラス微菌ノ寄生ヲ受ケタルモノ亦三重縣ニ次キテ少ナカリシモ解舒ハ概シテ良好ナラス額節及切斷ノ數多クシテ器械審査ノ成績ハ岐阜縣ニ僅ニ勝リ他ノ三縣ニ劣レリ愛知縣 此縣出品繭モ亦其種類三十四種ノ多キニ達セリト雖モ又昔小石丸青熟ノ三種ヲ併スレハ全數ノ八割餘ニ達シ他ハ甚タ少數ナリ繭形ハ大小其適度ヲ得タルモノナリト雖モ微菌ノ寄生ヲ受ケタルモノ甚タ多ク其品質亦概ネ佳良ナラス肉眼審査點ハ常ニ岐阜縣ヲ除ケル他ノ三縣ニ劣レリ器械審査ノ成績ハ概ネ三重縣ニ次キテ他ノ三縣ニ勝レリト雖モ全体ヲ綜合セル成績ハ遂ニ數歩ヲ譲リテ漸ク岐阜縣ノ上ニ位セルニ止マレリ

今彼是ノ比較對照ニ便セシカ爲メ肉眼審査及器械審査ノ各項ニ於ケル優劣ノ等級ヲ表示セハ左ノ如シ

縣名	肉眼審査計			器械審査計
	第一審査	第二審査	第三審査	
岐阜縣	四	一	五	一
三重縣	二	二	三	二
山梨縣	二	二	三	二
靜岡縣	三	二	四	一
愛知縣	三	二	四	一
合計	四	二	三	一
器械	二	四	三	一
合計	二	四	三	一

生絲及蠶種審査復命書

小官儀疊ニ岐阜縣主催第五回東海農區五縣聯合共進會審査官ヲ拜命候ニ付開設地岐阜市ニ出張シ生絲及蠶種ノ審査ニ從事致候小官ニ屬シタル審査員ハ左記ノ通ニ有之候

- 生絲、蠶種、三重縣、伊藤勝治郎
- 生絲、蠶種、岐阜縣、齊藤佐平
- 生絲、蠶種、愛知縣、田口百三
- 生絲、蠶種、靜岡縣、伊藤仙太郎
- 生絲、蠶種、山梨縣、小川清貴

蠶種

山梨縣 奥山七郎右衛門

各審査員ハ篤實事ニ當リ勵精務ニ服シ能ク職責ヲ全フセシハ小官ノ茲ニ特筆セサルヲ得ナル所ニ御座候今ヤ審査ノ成績ヲ概括シテ別紙報告ヲ綴リ謹テ復命候也

明治三十四年五月

岐阜縣主催第五回東海農區五縣聯合共進會生絲蠶種審査官

蠶業講習所技手 山本竹藏

農商務大臣林有造殿

生絲及蠶種審査報告

生絲

生絲ノ出品點數ハ一百四十一點ニシテ其出品人員ハ一百三十三人トス之ヲ縣別トスレハ左ノ如シ

縣別	標目	出品點數	出品人員
三重縣	重	二〇	二〇
岐阜縣	阜	七四	七二
愛知縣	知	三四	二八
靜岡縣	岡	九	九
山梨縣	梨	四	四

生絲及蠶種審査報告

即チ岐阜縣ノ出品最モ多クシテ山梨縣ノ出品最モ少ナク僅々四點ニ過キサリシ愛知縣ノ出品中ニハ同
功繭絲其三分ノ一強ヲ含メリ

出品ハ肉眼審査ニ附セサルモノナキハ勿論悉ク之ヲ器械検査ニ附シ可及的慎重綿密ヲ主トシタルカ故
ニ出品者ニ在テハ遺憾ナカルヘシト信セリ

審査ノ成績ニ據レハ品質ハ一般概シテ佳良ニシテ進歩ノ形蹟ヲ認ムト雖モ尙ホ未タ改良ノ餘地少ナカ
ラサルヲ恨事トス今ヤ出品全体ニ就キテ評論スレハ左ノ如シ

抑モ生絲ハ徒ラニ其色ノ白キヲノミ貴フヘキモノニアラスト雖モ賣買ノ間尙且ツ是ニ眩惑スルモノア
ルカ爲ニ乾燥セサル繭ヲ繅絲シ或ハ繭ノ煮熟不充分ナルモノ等ニシテ光澤ナクシテ單ニ白色ノモノヲ
出品セルアリ又繭ヲ乾燥スルノ際高温ヲ用キ或ハ過度ニ乾燥セルタメ甚シキハ黄色或ハ淡褐色ヲ帶フ
ルモノ等アリ又用水ニ原因シ若クハ全乾セスシテ繭架ニ放置セル繭ヲ繅製セルタメ淡黑色ヲ帶ルモノ
アリ殊ニ一種ノ繅絲法ニヨリテ著ルシク黒褐色ヲ呈セルモノアリシ惟フニ生絲ノ色澤ハ其原繭ノ品位
ト絲質トヲ表現スヘキモノナルニヨリ其純清煥美ナルハ最モ望マシキコトナリト雖モ唯光輝ナキ白色
タラシメンカタメニ他ヲ犧牲ニ供スルノ要ナキハ論ヲ俟タス故ラニ好ンテ暗澹ニ過キシムルモノ亦刻下
未タ俄ニ稱揚スル能ハサルヘキナリ

東裝ニ至テハ同功繭絲ヲ除クノ外ハ悉ク捻造ニシテ結束ハ批難スヘキ點少ナク大ニ一定標準ハ喜フヘ

キ現象ナリ唯東絲ハ間々太キニ過ルモノアリ力絲ニ「カタン」絲及ヒ絹絲ヲ用キタルモノアリ緒留ハ大
抵佳良ナリシト雖モ稀ニ表緒ノ一方ニ止マルモノアリシ惟フニ是等ノ些末ナル事項ハ之ヲ刷新一定ス
ル莫ニ易々タルノコトナルニモ拘ラス一地方ニ於テスラ區々ニ渉ルモノ尙尠カラサルヲ見ルハ抑モ本
業改良機關ノ不備ナルニヨルニアラサルカ大ニ熟慮ヲ費ヤスノ價値アリ

絡交ハ多クハ拙劣ニシテ器械ノ不完全ヲ證スルニ足レリ而シテ其最モ整備セルモノヲ愛知縣三龍社ノ
生絲トス又出品中稀ニ雙角ノ甚シク固着セルモノアリ其ノ雙角ノ幅五分ノ廣キニ至リ総巾三寸ニ達レ
ルカ如キ殆ント論スルニ足ラサルモノアリ之ニ反シテ雙角ノ固着ヲ恐レ疎鬆ニ失シテ却テ繰返ニ適セ
サルモノモアリシ

織度ハ他ノ共進會ニ於ケルト一般殆ント皆細絲ニシテ其最モ細キハ岐阜縣ニ於テ七デニール八分七厘ノモ
ノヲ見、太キモノハ三重縣出品ニ於テ十七デニール八分三厘ノモノアリシ(但シ愛知縣出品同功繭絲ヲ除ク)
織度細太ノ差少ナキモノハ岐阜縣出品細絲九デニール四分七厘ノモノニ於テ其差僅ニ〇、六デニール
ノモノアリ其差ノ大ナルモノモ亦同縣出品ニ於テ之ヲ見タリ即チ十五デニール一分七厘ノ太絲ニ於テ
六デニール四分ノ開差アリシ而シテ細太ノ差總平均左ノ如シ

細絲

ニデニール五八

中細絲

ニデニール九三

生絲及繭種審査報告

木

三デニール五三

繰返シハ解舒佳良ニシテ終始一回ノ切斷ナキモノモアリシト雖モ切斷甚シク絡絲紛亂シ遂ニ繰返シ能ハサルモノモアリシ蓋シ細絲ニ在テ鑿角ノ固着甚シク絡交不完全ニシテ織度不齊ナルモノ等ニ在テハ殆ント處理シ難キモノアルハ平素撚絲場ニ於テ往々其非難ヲ聞ク所ナリ當業者タルモノ常ニ戒心セザルヘカラス

大額ハ檢尺器ノ百回間ニ於テ平均十八個五ノ多キニ上リシモノアリ小額亦百十九個ノ多キヲ見ル殊ニ「びりぶし」ノ少ナカラサルモノヲ散見セリ蓋シ共撚式ノ機械ニ於テ注意セズシテ繰絲セシニ由ル殊ニ甚シキハ繰絲中繰切斷セシトキ撚リ付ケタルマ、繰流シタルモノアリ技術ノ粗雑拙劣モ亦茲ニ至テ極マレリト謂フヘシ惟フニ斯ノ如キハ知テ之ヲ爲スニハアラスシテ實ニ工女ヲシテ普通ノ繰絲術ヲモ了解セシメサルニ由ル決シテ惡ムヘキモノニハアラスシテ眞ニ憐ムニ堪ヘタルモノト云フヘシ局ニ當ルモノ宜シク之ヲ教導スルノ方策ヲ講究スヘキナリ

強力伸度ハ一點毎ニ各部十本宛ヲ取リテ之ヲ檢シ其平均成績ヲ求メタリ伸度ハ概シテ劣弱ナルヲ遺憾ナリトス蓋シ伸度ハ氣候トノ關係著ルシク割切ナリト雖モ又以テ繰製ノ不當ナル徵證タラスンハケテス其伸度二割以上ニ上レルハ僅々三十點ヲ算シ得タルノミ

之ヲ要スルニ三重縣及ヒ愛知縣靜岡縣等ハ出品點數少ナシト雖モ甚シク劣等ノモノナタ山梨縣ハ出品

四點ノ内三點ハ數量僅少ナルモノニシテ殆ント優劣ヲ判別シ易カラス岐阜縣ニ至テハ出品點數最モ多カリシト雖モ從テ玉石混淆ノ觀アリシ殊ニ其束裝ニ於テ絹絲ヲ以テ括ノ頭部ヲ裝ケ或ハ小ナル紙片ヲ綴毎ニ附シ或ハ山道ヲ二重ニ裝置セル絡交原器ヲ用キ故ラニ綴耳ヲ薄クセルカ如キハ岐阜縣生絲ノ忌ハシキ特色ト云フヘシ

此他器械檢査成績ノ要領ハ別表ニ記スル所ノ如クニシテ成績ヲ審按シ左表ノ如ク擬賞セリ

縣別	等級	一等	二等	三等	四等	五等	六等	合計
三重	重	10	22	24	23	41	4	111
岐	岐	0	0	0	0	0	0	0
愛	知	0	0	0	0	0	0	0
靜	岡	0	0	0	0	0	0	0
山	梨	0	0	0	0	0	0	0
合	計	10	22	24	23	41	4	124

愛知縣出品中同功繭絲ハ大ニ技術ノ進歩ヲ證ス而シテ出品ハ悉ク之ヲ器械檢査ニ附シタルカ故ニ就中其優等ナルモノ數點ニ就キ其成績ヲ摘録シテ參考ニ資スルコト左ノ如シ

標目	平均	細太ノ差	切斷	額節	強力	伸度
番號	10311	35	4	275	398	263
生絲及製種報告						253

二	一七、〇〇	二、四	三三、五	六四、六	七四、三
三	一四、五〇	三、八	二三、五	四八、五	七七、一
四	一四、三〇	四、五	四五、〇	七一、八	九〇、六
五	一一、〇八	三、〇	四〇、〇	五〇、九	七九、四

二百三十三

備考 検査ノ方法ハ別表生絲ノ検査法ニ同シ唯縮節ハ極テ小ナルモノヲ數ヘス
生絲器械検査縣別成績表

縣別	標目	織			度			切斷			大			小			強力伸度			
		平均	最大	最細	平均	最多	最少	平均	最多	最少	平均	最多	最少	平均	最多	最少	平均	最多	最少	
愛知	太
	中
	細
岐阜	太
	中
	細
三重	太
	中
	細

備考	山梨			静岡		
	太	中	細	太	中	細
織度検査絲ハ認ノ表裏ニ於テ二百回ツ、三回合計六本ヲ探レリ○切斷ハ織度検査絲線 取中ノ數ヲ算フ○類節ハ同上線取ノ際其二百回目ノ百回間ニ於テ認ノ表裏各一回ツ、 其數ヲ檢シ之ヲ平均シタル數トス○強力ハ同上線取ノ際各部ヨリ可檢絲ヲ取り其十本 ヲ試験シタル平均成績ナリ○本表ハ同功繭絲ヲ除キタル成績トス

蠶種

蠶種ノ出品點數ハ二百八十三點ニシテ其出品人員ハ百七十九名トス之ヲ縣別ニ表示スレハ左ノ如シ

縣別	標目	出品點數	出品人員
三	重	二一	一五
岐	阜	八九	五六
愛	岡	一四	八
靜		四	三

生絲及蠶種審査報告

二百三十三

山

梨

一五五

二百三十四

九七

即チ山梨縣ノ出品最多クシテ岐阜縣ノ出品之ニ次ク而シテ岐阜縣ニ在テハ夏蠶種一點秋蠶種八十九點ヲ含ミ山梨縣ニ在テハ秋蠶種三十一點ヲ含メリ左表ノ如シ

縣別	春蠶種		夏蠶種		秋蠶種	
	框	普通	框	普通	框	普通
三重	二九	九	—	—	二〇	—
岐阜	一〇	—	—	—	—	—
愛知	—	—	—	—	—	—
靜岡	—	—	—	—	—	—
山梨	七三	—	—	—	—	—
合計	一二六	九七	—	—	三〇	—

而シテ各縣ニ於ケル蠶種ノ品名左ノ如シ

岐阜縣

春蠶種

青熟、又昔、大青、白玉、黃金、黃金又、澤本、小石丸、支那、改正丸、角又、中巢、金鷄青、熟、小青、

夏蠶種

中巢

秋蠶種

龍頭、銀白、中巢、白玉、金子丸、又昔、小石丸、生駒、玉無

三重縣

春蠶種

又昔、白玉、青熟、太平寮、世界一

愛知縣

春蠶種

又昔、青熟、黃金、黃金又昔、紹興、均白

靜岡縣

春蠶種

均白、小石丸、改良小石丸、白錦、

山梨縣

春蠶種

中巢、小石丸、青熟中巢、青熟、改良小石丸、改良中巢、金剛石、支那種、明白、銀白、又昔

生絲及蠶種審査報告

二百三十五

飛馬蠶、支那餘杭種、白玉、銀白中巢、
秋蠶種
銀白、中巢、青熟中巢、

出品蠶種ニシテ微粒子病毒ヲ合在セルモノ左表ノ如シ

縣別	種別	製		普	
		蠶種總點數	有毒蠶種點數	蠶種總點數	有毒蠶種點數
三	重	五〇九	七三	一三	七
岐	知	一〇〇	〇	四	〇
愛	岡	三三	一〇	一	〇
靜	梨	九三	二二	六二	二四
山	計	一九三	一〇七	一四	一七

今縣別ニ概評ヲ下セハ左ノ如シ

三重縣 微粒子病毒ヲ含メルモノ少ナシトセサレトモ出品點數ノ三分ノ二以上ハ肉眼鑑定上皆優良ナルモノニシテ眞ニ進歩ノ著ルシキモノアリ

岐阜縣 框製ノ出品ハ普通製ヨリモ多ク病毒又少ナシ品位ノ佳良ナルモノハ出品點數ノ三分ノ一内外トス東濃地方ノ秋蠶種ハ大ニ注目スヘキモノナリ唯製造法尙一層ノ注意ヲ要ス

愛知縣 品質概シテ佳良ニシテ微粒子病毒ヲ含ムモノナシ

静岡縣 産着色澤形状等皆不可ナラスト雖モ點數僅少ニシテ品名ハ皆異レリ

山梨縣 出品點數最モ多ク秋蠶種ノ出品モ亦岐阜縣ヨリ製造ノ法殊ニ普通製ニ巧ナルヲ見ル

要スルニ全般ヨリ觀察スルトキハ品位概シテ佳良ナリト雖モ決シテ小成ニ安ンスヘキモノニアラス宜シク益ス育蠶ノ技術ヲ練磨シ病毒ノ殄滅ヲ計リ以テ健全強壯ナル蠶種ヲ作ルト同時ニ他ノ總テノ製造ノ方法モ亦一層注意一定センコトヲ望ムモノナリ

今審査ノ成績ニヨリ縣別ニ擬賞數ヲ擧クレハ左表ノ如シ

縣別	等級	製		普	
		蠶種總點數	有毒蠶種點數	蠶種總點數	有毒蠶種點數
三	重	一〇〇	〇	一	四
岐	知	〇〇〇	一	三	〇
愛	岡	〇〇〇	〇	〇	〇
靜	梨	四三	七三	六	一
山	計	一九三	一〇七	一四	一七
合	計	一九三	一〇七	一四	一七

漆器審査復命書
生絲及蠶種審査報告

第五回東海農區五縣聯合共進會出品漆器審査報告ノ稿成ルヲ以テ別冊報告書相添茲ニ謹テ復命ス

明治三十四年六月二十日

第五回東海農區五縣聯合共進會審査官

農商務省特許局審査官 金子篤 等

農商務大臣平田東助殿

漆器審査報告

今回漆器ヲ出品シタルハ三重、愛知、静岡、岐阜ノ四縣ニシテ出品數千三百餘點ニ達セシカ審査員ハ審査ノ公平ヲ保タンカ爲自己出品ノ審査ヲ受ケサルノ目的ヲ以テ第二區ノ出品ヲ取消シ第三區へ出品セシヲ以テ實際審査ヲ受ケタルハ約千點ニ過キス而シテ内地向普通品大多數ヲ占メ貿易漆器及所謂美術的漆器ノ如キハ多カラス今其一般ヲ察スルニ從來ノ製品ニ比スレハ概シテ進歩ノ形跡アリ即チ静岡縣ノ漆器ニハ新規ナルモノアリ愛知縣ノ漆器ニ於テハ新規ナラサレトモ精巧ナルモノアリ岐阜縣漆器亦然リ但三重縣漆器ニ於テハ全ク進歩ノ形跡ヲ認メス抑モ一般塗抹製品ナルモノハ耐水、耐火、保温、絶縁、防銹等ノ目的ヲ達スヘキ材料ヲ塗抹シテ器物ヲ保護シ之ヲ堅牢ナラシメ且相當ノ外觀ヲ呈セシムルモノニシテ漆器モ亦其一種ニ屬シ堅牢ナルト外觀美麗ナルトニ依リ常ニ塗抹製品中優位ヲ占メタリト雖モ近來學術ノ進歩ニ依リ漆液以外ノ材料ヲ用ヒ漆器ト稍同様ノ目的ヲ達スルモノ發見セラレタ

ルヲ以テ漆器製造家モ學術ヲ應用シテ一般塗抹製品ト競争シ得ヘキモノヲ製出スルニ心掛クルコト肝要ナルヘシ

尙參考ノ爲メ各縣出品ニ就テ左ニ概評ヲ掲ク

三重縣 本縣出品ハ飽日溜塗ノ重箱及繕盆ノ類多數ヲ占メ何レモ實用的製品ニシテ外觀一様ナレトモ其中ニ殊更ニ塗ニ模様ヲ現サンカ爲メ髹漆面ニ漆ヲ除キタルモノアリ是レ從來ノ製品ト異ナル所ナリト雖モ斯ノ如キハ反テ實用上ニ適セサルノ恐アリ且別段外觀ヲ能クスルニアラサルヲ以テ將來ハ實用ヲ主トシテ意匠ノ應用ヲ誤ラサル様注意スルコト肝要ナリ箸及春慶塗ノ物品數種アリト雖モ別段進歩ノ徵ナシ然レトモ概シテ價格ノ廉ナルハ嘉スヘシ

桑名盆ノ如キモ亦更ニ進歩ノ徵ナク其蒔繪ノ如キハ反テ從來ニ比シテ退歩シタルカ如シ磯部某ノ出品ニハ稍ヤ見ルヘキ物アリト雖モ髹術未タ精ナラス且價格不廉ナルハ欠點ナリ

要スルニ本縣ノ漆器ハ實用ヲ主トシ意匠ノ應用ヲ誤ラサル様心掛クルニ於テハ將來進歩ノ見込ナキニアラス

愛知縣 本縣ノ出品ハ主トシテ内地向普通品ニシテ繕盆重箱硯箱ノ類多數ヲ占メ外國向漆器ニ乏シ而シテ製品ハ稍高尚ナリト雖モ本業ニ於テ學術上ノ新智識ヲ應用シタルノ形跡ナク單ニ從來ノ技術ニ於テ稍熟練ノ域ニ達シタルニ過キス製品中ニハ随分美麗ナルモノアリト雖モ之ヲ日常普通品トシテ

考フレハ稍高尚ニ過キ美術品トシテ考フレハ蒔繪模様ノ穩當ナラサルモノモアリ出品中秋草及眠猫蒔繪菓子器ノ如キハ品質稍良好ナルヲ以テ茲ニ審査員守隨鐘三郎ノ批評ヲ掲ケンニ飼猫ノ秋草ニ戯レ途ニ倦ミ果テ、花下ニ眠ル處秋ノ物淋シキ有様ヲ能ク寫シタリ又圖ノ點ニ至テハ故俳士ノ銘吟シタル「黃菊白菊その外に菊なきもかな」ノ意ヲ取リテ軸立テニ用ヒ添フルニ秋草花ニ寫ノ紅葉ヲ示シ恰モ秋ノ野山ヲ見ルカ如シ此ノ如キハ得難キ製品ナルヘシト唯惜ムラクハ女郎花ノ葉カ位置天然物ト相違セルト猫ノ形狀過大ナルトノ欠點アリ然レトモ一般ノ製品ハ下地堅牢ニシテ日常用什器トシテ適當ナルモノ多シ就中七寶塗ノ如キハ特ニ堅牢ナリト雖モ圖案幼稚ナルト價格不廉ナルトノ欠點アリ佛壇ハ餘リ良好ナルモノヲ認メス

静岡縣 静岡ノ漆器ハ重キヲ海外輸出ニ置キ其産額ノ七分ハ輸出品ニシテ三分ヲ内國品トス然ルニ今回ノ出品ハ内國用品割合ニ多ク輸出品ハ塗板文庫小箱等ノ數點ニシテ只其一班ヲ示スニ過キス故ニ輸出品一般ニ對シテノ概評ハ出來得サルモ其出品ニ就キテ一言センニ髹抜ノ描繪等ノ新意匠ニ係ルモノハ年々著シキ進歩ヲ致シ近來ハ蒔繪ニ「アルムニユム」ヲ應用シテ各種ノ色ヲ現ハシタルモノアリ右ハ一ハ流行ノ速カナル歐米人ヲ顧客トナスカ故ニ製造者カ銳意新考案ヲナスニヨレリ今ヤ本縣貿易漆器製造地トシテ重要ナル位置ヲ占ムルカ偶然ニアラサルナリ然リト雖モ髹術描技ノ進歩ハ唯器物ノ光澤外見ヲ美ニセル點ニテ漆地ノ構造下地ノ方法ノ如何ハ未タ輕々ニ稱贊スルヲ得ス文庫小

箱等今ハ輸出品トシテハ欠點ヲ見スト雖モ塗板ノ如キハ今一層下地ノ改良ヲ要ス

内國品ハ静岡特色ノ木地蠟塗及蠟色塗研出蒔繪等ニ頗ル精緻巧熟ノモノアリ其模様モ亦能ク整ヘリ就中感スヘキハ山本千代藏出品ノ如輪硯箱ニシテ甲凸面ニ椀如輪ヲ鍊付ケ側面ハ悉ク曲物ニナシ其接合ノ箇所ニ同一ノ柰目ヲ嵌メ以テ毫モ接合ノ部分ヲ露出セサル至難ノ工ヲ施セシハ尋常ノ作者ニアラサルヲ知ル只其價ノ高キト形狀ノ野鄙ニ陥リシハ惜ムヘシ

岐阜縣 岐阜縣出品ノ漆器ハ大野郡高山町製造ニ係ルモノ其大部ヲ占メタリ同町製品ハ古來有名ナル飛彈春慶塗ヲ始メ紅春慶塗黒塗其他蒔繪漆器等見ルヘキモノ多ク特ニ春慶塗ニハ近來有爲ノ職工輩出シ在來ノ形式ニ改善ヲ加ヘ髹法亦精熟セルモノアリ就中福壽瀧藏出品阜月盆ハ杜鵑ノ模様ヲ打出セル最モ斬新ナル考案ニ出テタルモノニシテ淺野利右衛門出品霞飽目半月盆ノ如キ髹色清麗雅趣言フヘカラサルモノアリ而シテ價格亦甚タ高カラサルハ以テ需要ノ廣キヲ知ルヘキナリ蒔繪漆器ハ古來同地方製品中ニ見サリシカ近來稍此術ヲ研究スルモノアリテ今回福壽瀧市出品文臺ノ如キハ圖樣甚タ宜シト雖モ其技未タ精妙ノ域ニ至ラスシテ螺鈿ノ裝置等多少非難アルハ惜シムヘシ小島由太郎出品ノ千歲曲火鉢ハ堅質ノ材料ヲ任意ニ屈撓シタルモノニシテ其技術甚タ巧ミナリト云フヘク髹色亦惡シカラス町田長之助等ノ出品紅春慶塗、佳榮太郎出品洗朱地盆ハ形式能ク整ヒ髹塗又堅牢ニシテ孰レモ世人ノ需要ヲ呼フヘキモノアリ

同縣中大野郡高山町出品ヲ除キテハ岐阜市惠那郡不破郡等ノ出品アルニスキ其數甚タ少ク又人目ヲ惹クニ足ラスト雖モ惠那郡勝野周右衛門出品洗朱會席膳ノ如キハ特ニ髹漆堅牢ニシテ價格亦甚タ高カラス能ク實用ニ適スルモノト云フヘク岐阜市出品ノ佛檀三味線等モ多少需要アルヘキモ其他不破郡出品ノ蒔繪重箱及床縁ノ如キハ此レ亦尋常ノ製作品ニシテ敢テ評言ヲ加フルニ足ラス

紙製品審査復命書

岐阜縣主催第五回東海農區五縣聯合共進會出品紙製品審査報告書完成候ニ付別冊報告書相添ヘ謹テ復命ス

紙製品審査官

明治三十四年六月

工業試驗所技手

大野 續

特許局審査官

一川 一

農商務大臣平田東助殿

紙製品審査報告

本會ニ出品セル紙製品ノ總數ハ一千三百三十三點其人員百二名ニシテ就中出品ノ最モ多キヲ岐阜縣トシ三重愛知ノ二縣之ニ次キ静岡山梨ノ二縣ハ一二點ヲ出セルノミ出品ノ種類ハ提灯傘擬草紙團扇扇子型紙油團涼團及紙手巾窓張紙等トス今審査ノ結果擬賞セルモノ四十三名ナリ以下各縣出品ニ就キ概評

ヲ與フレハ左ノ如シ

三重縣 本縣ノ出品ハ總數四百二十二點其人員五十二名ニシテ其種類傘擬草紙型紙團扇提灯等トス而シテ傘中其最モ多キハ蛇ノ目傘トス元來三重縣ノ特色ハ番傘ニシテ近來三遠駿ノ三國地方ヘ盛ニ輸出セリ然ルニ此回ノ出品ニ此種ノモノ少ナキハ遺憾トス且一般ニ價額高キニ過クルノ欠點アリ當業者ノ反省ヲ促ス

擬草紙ハ古來本縣著名ノ一物産ニシテ近來其術大ニ進歩シ益其販路ヲ擴メ從來ハ煙草入製作用トシテ一部ノ需用ニ過サリシカ近時下駄爪掛其他携帶品類製作用トシテ應用セラル出品中羊羹紙ノ如キ紙質色澤共頗ル佳良ナルモノアリト雖トモ往々原料粗惡ナルタメ斑點ヲ現ハシ品位ヲ損スルモノアリ髹漆用型紙應用ノ方法巧ミナラサルモノアリ又用途ノ如何ニ係ハラス單ニ陳列品トシテ外觀ノミニ留意シ實用ニ適セサル製作品アルハ頗ル探ラサル所ナリトス又近年ノ發明ニ係ル無油製擬草紙ノ如キハ其技術大ニ進歩シ海外輸出額ヲ増進スルニ到レリ將來益此事業ヲ發達セシメンコトヲ望ム又擬草紙製携帶品類モ種々新規ナル製作アリ稍改良ノ實跡ヲ見ルト雖トモ尙ホ不完全タルヲ免レス殊ニ縫合法ニ對シテハ改良ヲ要スルノ點少ナカラス

型紙ハ古來本縣白子町ノ特産ニシテ各地ヘ輸送シ來リタルモ維新後世ノ風潮ニ伴ハレ東京及京坂地方ヘ良工ノ移轉スルモノ多ク爲メニ累年退歩ノ狀アリシカ近時組合ヲ設ケ斯業ヲ獎勵セシ結果出品

紙製品審査報告

中大ニ見ル可キモノアリ然レトモ染色用型紙ノミニ甘セス窓紙其他團扇等ニ此技術ヲ應用スルコトヲ考案セハ海外輸出ノ見込アル可シ當業者ノ反省ヲ望ム

團扇ハ專テ内地用ニ止マリ其術拙ニシテ改良ノ實跡ナキハ遺憾トス

愛知縣 本縣ノ出品ハ總數九十點其人員九名其種類ハ提灯團扇扇子傘ノ四種トス而シテ提灯ハ其産額少ナカラスト雖トモ製作圖案意匠等ノ見ル可キモノナキハ遺憾トス

團扇ハ專ラ内地用ノミニシテ製額少ナカラス出品中ニ重張りノモノ或ハ扇子形ノモノアリ是等ハ只奇ニ走ルニ過キスシテ實用ニ適セサルモノナリ

扇子ハ專ラ京都市ノ製作品ヲ模倣シテ別ニ新意匠ヲ出スモノナク比較上價格モ廉ナラサルヲ遺憾トス

傘ハ其出品少數ニシテ批評ヲ試ムルニ足ラス

静岡縣 本縣ノ出品ハ總數二點其人員一名雨傘ノ一種トス出品少ナキヲ以テ特ニ批評ス可キ點ナシト

雖トモ番傘ノ製作ハ稍ヤ重キニ過キ携帯ニ不便ヲ感シ且價額不當ナリト認ム

山梨縣 本縣ノ出品數一點一名ノ出品ニシテ特ニ批評スルノ價値ナシ切ニ此後ノ發達ヲ望ム

岐阜縣 本縣ノ出品ハ總數八百十八點其人員三十九名ナリ其種類ハ提灯傘紙手巾團扇油團涼團擬革紙文庫保米袋保爾袋窓張紙等ナリ而シテ提灯ハ本縣特産物ニシテ品質製作意匠等大ニ見ル可キモノアリ

リ殊ニ本會ニ因ミアル五縣聯合ヲ意味スル圖案其他種々ノ意匠ヲ案出シタルハ益進歩ノ傾向ヲ現ハシタルモノト云フ可ク然ノミナラス海外輸出品ニ種々ナル異形ノモノアリ産額又多ク單ニ聯合縣ノミナラス本品ハ全國ニ其首位ヲ占ムルモノナリ

傘ハ品質精良産額夥多價額低廉優ニ聯合諸縣ノ首位ヲ占ム然シテ原料タル竹骨穀紙悉皆縣下ニテ産出セルモノナリ特ニ雨傘ニ模様ヲ現ハセルモノ、如キハ新意匠ニシテ其考案賞スルニ足ル繪日傘大傘暖爐隠等ハ專ラ海外輸出用ニシテ配色圖樣共ニ外人ノ嗜好ニ適シ其産額夥多ナリトス出品中本會ニ因ミタル意匠ノ見ル可キモノアリ

團扇中擬漆團扇ハ本縣ノ特産物ニシテ近年長足ノ進歩ヲナシ盛ニ毎外ニ輸出スルニ到レリ雁皮紙張及典具帖張りモ亦盛ニ輸出セラル奉書張り團扇ハ近來ノ製作ニ係ルモノニシテ其産額他ニ比スレハ稍ヤ少ナシト雖トモ製作上ニ於テ精巧ナルト透模様入り等ノモノハ意匠製作共ニ佳良ナリト認ム

油團涼團ハ是又本縣ノ特産物ニシテ内地ノ需用廣ク價額低廉ナリ油團ハ紙ノ繼合ニ不注意ノ點アリ涼團ハ改良ヲ要スルノ點少ナカラス

擬革紙文庫保米袋保爾袋共ニ出品少數ニシテ批評スルノ餘地ナシ

廻リ扇紙手巾窓張紙ノ三質ハ專ラ海外輸出品ニシテ意匠等外人ノ嗜好ニ適シ從ツテ其産額夥多ナリ

目下英佛ニテ流行ノ滑稽書ヲ現ハセルモノ、如キハ大ニ見ル可キモノトス

紙製品受賞人員縣別表

縣名	等級	一等	二等	三等	四等	五等	六等	合計	出品點數	出品人員
三重			一				七	一四	四二二	五二
愛知					一		二	五	九〇	九
靜岡										
山梨										
岐阜										
合計		一	一	四	七	一七	八	二四	八一八	三九

織物染物審査復命書

第五回東海農區五縣聯合共進會出品織物染物ノ審査ニ係ル復命書ヲ座右ニ呈ス希クハ電覽ノ榮ヲ賜ラ
ンコトヲ

明治三十四年六月十日

第五回東海農區五縣聯合共進會出品織物染物審査官

工業試驗所技手 中里新太郎
茨城縣技師 竹下直次郎

農商務大臣平田東助殿

小官等織物染物ノ審査ニ從事スルコト二十有餘日審査員ノ勉勵ニ依リ審査精密ヲ欠カス期日ニ後レス
、シテ早ク審査ヲ結了シタルハ小官等ノ深ク喜フ處ナリトス小官等カ擔當セル部類ニ屬セル審査員ハ五
名ニシテ左ノ如シ

愛知縣	眞木 鑑吉
靜岡縣	木俣千代八
岐阜縣	田中善次郎
山梨縣	志村 登
三重縣	今村 浦吉

織物染物審査報告

織物ハ各類ヲ通シテ出品人員一一七七、出品點數三四二八、ニシテ出品人員ハ山梨縣最モ多ク岐阜、愛
知、三重、靜岡順次之レニアク又出品點數ハ岐阜縣其首位ヲ占メ山梨、三重、愛知、靜岡是レニ次ク前
回ニ比シ一般ニ進歩ヲ認ム就中山梨縣ノ甲斐絹類岐阜縣ノ鹽瀨、縮緬類、瓦斯博多織、愛知縣ノ絹毛
交織、絹綿交織、三重縣ノ羽二重靜岡縣ノ綿風通等見ルヘキモノナリ然リト雖モ尙ホ原糸ノ選擇並ニ
組織、意匠、染色、整理ノ改良等大ニ注意ヲ要スルモノアリ今各類ヲ縣別ニ概評スレハ次キノ如シ

織物染物 報告

第十四類 絹織及ヒ其交織

三重縣 出品人員一四出品點數三九其數僅少ニシテ評スルニ足ラスト雖モ輸出羽二重ハ稍ヤ見ルヘキモノニシテ將來有望ナルモノナリ是レカ獎勵發達ノ道ヲ講スルハ最モ急要ナルコトトス

愛知縣 出品人員二二出品點數四三紋羽二重、袴地、帶地、諸系織等ノ出品アリ一般ニ進步ノ傾向ヲ有スレトモ未タ普通品ノ範圍ヲ脱セス特産トシテ誇ルニ足ルヘキモノナシ只帶地、袴地ノ如キハ將來大ニ望ヲ屬スヘキモノナル可レトモ今回ノ出品如何ニモ少數ニシテ其趨勢ヲ知り難シ

静岡縣 出品人員二出品點數五、其數僅少ニシテ評スルコト能ハス

山梨縣 出品人員五二三、出品點數六九三、人員及ヒ點數ニ於テ本類中其首位ヲ占メ見ルヘキモノ亦少ナカラス而シテ已ニ地方的分業ノ域ニ達シ甲斐絹類殆ント其全部ヲ占ム最モ目ヲ引クモノハ傘地甲斐絹ニシテ組織手觸大ニ進步ヲ認ム然レトモ光澤ニ乏シキハ一大缺點ナリトス尙ホ原絲ノ精撰染色整理ノ改良等大ニ望ム處ナリ又タ繪甲斐絹ハ見ルヘキモノアリト雖モ意匠概テ雅致ニ乏シキノ感アリ紋甲斐絹ハ模様拙劣ニシテ見ルニ足ラス抑モ甲斐絹類ハ其需用廣ク唯タニ内國ニ限ラス遠ク海外ニ迄供給スヘキモノナレハ益々技術ノ上進發達ヲ講スルトキハ當縣ハ實ニ我カ國輸出製絹業ノ重要地タル期シテ俟ツヘキナリ

岐阜縣 出品人員一六九、出品點數六一〇主要ナルモノハ鹽瀬、無地及ヒ紋縮種類、羽二重類、斜子、紋綾、絹織、繪絹等ニシテ其種類多ク概シテ進步ノ効果ヲ見ルモ羽二重ハ尙ホ經筋ノ現ハレタルモノ打チ込ノ不揃ナル緯絲引釣ト精練ノ純白ナラサルモノ等アリ紋織ニ繪緯ノ浮過キタルモノアリ將來一段ノ改良ヲ要ス只一二鹽瀬ニハ精良見ルヘキモノアリ縮種類モ亦目ヲ引クモノ少ナカラサレトモ模様未タ巧ミナリト云フコト能ハス又織傷ノ多キハ缺點ナリ又往々絹絲紡績ヲ混スルモノアリ是レ需用ヲ擴ムル上ニ於テ一ノ進步ナレトモ稍ヤモスレハ粗製ニ陥リ岐阜縮絹ノ聲價ヲ損スルノ恐レアリ當業者ノ注意ヲ要ス

第十五類 綿織、麻織、毛織及其交織物

三重縣 出品人員一〇五、出品點數四三四、重ナルモノハ伊勢綿、桑名綿、四日市綿、松坂綿、松坂木綿等ニシテ一般ニ耐久ヲ主トシ常服ニ適スト雖モ意匠拙劣ニシテ組織整理未タ幼稚ノ域ヲ脱セス當業者爰ニ意ヲ用ヘサレハ遂ニ世運ニ伴ハサルヘシ今回ノ綿物出品中ニ已ニ表面ト内部ニ於テ變色セルモノヲ見タリ是レ等ハ直接需用者ノ不信任ヲ招クヘキモノナレハ當業者ハ須ラク將來染色法ニ於テ一層ノ研究ヲナシ組合ニ於テモ亦是等濫造ノ監督ヲ爲スニアラスンハ後日伊勢綿ノ名聲全ク地ヲ拂フニ至ランカ

愛知縣 出品人員一六六、出品點數四二九、絹綿交織ヲ主トシ紺飛白、絹毛交織、綿風通織、白木綿織之レニ亞ク就中絹毛交織、絹綿交織ニハ品位優等ナルモノヲ見ルモ價格稍ヤ不廉ニ失スルヲ認ム

佐々飛白ハ別ニ進歩シタルヲ見スト雖モ染色ノ堅牢ト飛白目ノ緻密ナル爲メ需用多カルヘシ綿風通及ヒ白木綿ハ特ニ稱スルニ足ラス

静岡縣 出品人員二〇、出品點數一一九、重モナル出品ハ瓦斯絨、瓦斯風通、絹綿交織、紺無地木綿ニシテ瓦斯風通其上位ヲ占ム特ニ優逸ノモノヲ見スト雖モ亦甚タシキ劣等ノモノ少ナク近年大ニ進歩シタルヲ見ル染色地質共ニ他縣ニ遜色ナシト雖モ意匠ニ至リテハ聊カ拙劣ノ譏ヲ免レス紺無地木綿ハ染色組織稍ヤ見ルヘク、産額モ近年大ニ増加シ將來多量ノ製産品ナリトス

山梨縣 出品人員一、出品點數二、出品僅少ニシテ評論ヲ下スニ由ナシ

岐阜縣 出品人員一五五、出品點數一〇五四、稍ヤ見ルヘキモノ多シ就中瓦斯博多織ハ最モ精良ニシテ價格亦廉ナレハ廣ク需用ニ適スルモノナリ此外大柄疋物ノ出品多ク縞柄亦佳ナリト雖モ概シテ進歩ヲ認メス染色一般ニ不充分ナルハ大ニ惜ムヘキモノナリ

第十六類 染物

染物ハ出品人員七〇、出品點數三一七ニシテ愛知縣人員及ヒ點數ニ於テ首位ヲ占メ岐阜、三重之レニ次ク山梨、静岡ハ人員點數共ニ一、二ニ過キスシテ論評ヲ下スニ足ラス獨リ愛知縣ハ其進歩著シク見ルヘキモノ少ナカラサレトモ尙ホ染色意匠共ニ未タ幼稚ノ域ヲ脱セス將來大ニ改良ヲ圖ルヘキナリ

愛知縣ノ染物ハ有松絞、友仙染、更紗染等ニシテ何レモ進歩ノ形跡アリ就中有松絞ノ「シルケット」地棒絞リノ如キハ逐年改良シテ意匠モ年々嶄新ニ向ヒツ、アリ當業者ノ銳意斯業ニ熱心ナルヲ證スルニ足ル鈴木金藏出品「シルケット」地模様入絞ノ如キハ殊ニ技術精巧ニシテ能ク時好ニ投スヘキモノナリ友仙染ハ多クハ名古屋市ノ出品ニ係リ從來ノ共進會出品ニ比シテ漸次進歩ノ形跡ヲ認ムヘキモ尙ホ前述ノ如ク染色意匠共ニ幼稚ノ域ヲ脱セス友仙染ニ往々胡粉若クハ朱粉ヲ以テ着色セルモノアリ其洗濯及ヒ摩擦ニ堪ヘサルコトハ當業者自カラ認ムル所ナルヘシ昨夏富山市ニ開設セル共進會ニ於テ名古屋市出品ノ友仙ニ胡粉ヲ用キタルモノアリ當時此欠點ヲ指摘シテ當業者ニ注意スル處アリタリ然ルニ又今回ノ出品ニ於テ此弊ヲ見ル當業者タルモノ徒ラニ受賞ノ競争ノミヲ事トセス出品ニ關スル衆評ヲ採リ速カニ其欠點ヲ排除シ以テ他日ノ優勝ヲ期センコソ眞ニ共進會ノ趣旨ニ叶ヘタルモノト云フヘシ爰ニ再ヒ記シテ當業者ノ再考ヲ望ム更紗染其他ノ出品ハ近年著シキ進歩ヲ見ス

岐阜縣ノ黑其他ノ無地染ハ近年漸ク改良進歩ノ跡アルモ何レモ普通品ト評スルノ外特ニ稱スヘキモノナシ友仙染ノ出品ニ一、二、優等ノモノアルモ他府縣ノ製作ニ係レルノ感アリ

紙審査復命書

岐阜縣主催第五回東海農區五縣聯合共進會出品紙審査報告書完成候ニ付別冊報告書相添ヘ謹テ復命ス

明治三十四年六月

二百五十二

紙審査官

工業試験所技手 大野 楨

特許局審査官 一川 一

農商務大臣平田東助殿

紙審査報告書

本會ニ出品セル紙類ノ總數六百八十二點其人員四百十二名ニシテ就中出品ノ最モ多キヲ岐阜縣トシ靜岡、三重、山梨ノ三縣之ニ次キ愛知縣又數點ヲ出セリ出品ノ種類ハ美濃紙、半紙、半切紙、コッビー紙、典具帖及雜紙トス而シテ其最モ多キハ書院紙ニシテ其他ノ諸紙之ニ次ケリ今審査ノ結果擬賞セルモノ百〇一名ナリ以下各府縣出品ニ就キ概評ヲ與フレハ左ノ如シ

三重縣 本縣ノ出品ハ總數六十七點其人員三十四名ニシテ其種類ハ半紙、美濃紙、半切紙其他白中紙、中折紙、傘紙、障子紙、艶紙等ノ雜紙トス而シテ半紙并ニ書院紙中三種ノ如キ他種纖維ヲ混セルモノアルヲ認ム此ノ如キハ紙質壞損スルノ恐レアルヲ以テ楮皮製ノ生漉ニ改良センコトヲ望ム截斷法ハ凡テ拙劣ニシテ往々鎌ヲ用キタル實跡アルヲ認ム宜シク普通ノ庖丁ヲ採用セヨ又簧ハ可成精良ノ竹簧ニ改ム可シ藁紙若クハ藁ニ三種又ハ反古等ヲ混和セシモノヲ認メタリト雖モ其抄造法凡テ幼稚

ニシテ見ル可キモノニ乏シキハ遺憾トス尙又其質厚キニ過キ需用上不適當ノモノアリ宜シク薄クシテ漉切レ破レ等ノ欠點ナキ精良品ヲ抄出スルニ勉ム可シ

愛知縣 本縣ノ出品ハ總數八點其人員八名ニシテ森下紙ノ一種ニ止マリ其産額及販路モ極メテ狭少ナリ此種ノ紙ハ強韌ヲ貴フカ故ニ此目的ヲ遂行スル上ニ於テ充分ノ注意ヲ要ス然シテ現時實行セル抄造法ヲ二面漉若クハ四面漉ニ改ムルヲ適當トス

靜岡縣 本縣ノ出品ハ總數八十九點其人員四十二名ニシテ其種類ハ半紙、美濃紙、半切紙等トス而シテ書院紙、半紙中往々紙肉ニ富ミ需用上却テ不適當ト認ムルモノアリ薄ニ失セス厚キニ過サル程度ニ於テ抄造セハ大ニ其販路ヲ擴ム可シ又簧ノ製作拙ナルカ爲メ紙面ニ不整ナル線條ヲ露出シ品質ヲ損スルモノアルヲ以テ漉簧ニ修理ヲ加フ可シ張板ニ松材ヲ用ユル爲メニ紙面ニ木目ヲ現ハシ大ニ其外觀ヲ損スルヲ以テ張板ニハ木目ノ緻密且整一ナル木材即枋材ノ如キモノヲ用ユルヲ可トス然レトモ直ニ改作スルコトヲ得サル場合ハ常ニ松板面ヲ平滑ナラシムルヲ要ス紙張刷毛ニ藁刷毛ヲ用ユルノ慣習アリト雖モ此種ノ刷毛ハ紙面ニ其痕跡ヲ止ムル欠點アルヲ以テ可成精良ナル毛刷毛ニ換用ス可シ

山梨縣 本縣ノ出品ハ總數三十四點其人員二十二名ニシテ其種類ハ半紙、書院紙、半切紙、糊入紙等トス本縣製紙ハ着々改良ノ實ヲ擧ゲ大ニ見ル可キモノアリト雖モ張板ニ松材ヲ用ユル如キハ欠點ト

紙審査報告

二百五十三

云ハサル可ラス宜シク緻密ナル木材ヲ撰用ス可シ又紙色ヲ純白ナラシムルタメ青色料ヲ使用スルニ當リ其方法拙劣ニシテ完全ニ其目的ヲ達セシムルコト能ハサルハ遺憾トス宜ク顔料混合法ヲ巧ニ應用ス可シ

岐阜縣 本縣ノ出品ハ總數四百八十四點其人員三百六名ニシテ其種類ハ美濃紙、半紙、半切紙、コッ
ビー紙、典具帖、奉書紙其他三ツ折紙、紋紙、森下紙、提灯紙、小原紙、蠶卵原紙、生糸包紙、色
紙等トス前回ニ比スレハ改良ノ實跡ヲ擧ケタリト雖モ美濃紙、中截斷ニ不注意ナルタメ實ノ編目傾
斜シテ紙面ニ現ハレ又編糸ノ距離均一ナラサルカ如キ欠點アルヲ見ル此ノ如キ紙ヲ障子ニ應用スル
トキハ大ニ其体裁ヲ害スルカ故ニ是等ノ點ニ就テ充分注意スルヲ要ス尙障子紙ニ三極ヲ混入シ若ク
ハ漂白劑ヲ使用セルヲ認メタリ此ノ如キ工作ハ紙面ヲ弱メ其用途ニ適セサラシムルヲ以テ宜シク舊
法ノ生漉ニ改ム可シ又往々紙肉ニ乏シク且糊及白土ヲ用ユルノ量多キニ過クルモノアリ宜シク其量
ヲ減ス可シ又費ノ小ナルヲ以テ紙端ニ瑕疵ヲ殘シ或ハ刷毛目ヲ裏面ニ現ハセルモノアリ當業者ノ注
意ヲ促スコッビー紙ノ抄造法ニ就テバ特ニ欠點アルヲ認メス只乾燥不完全ナルカ爲メ紙面ニ皺ヲ生
セシモノアルヲ遺憾トス又典具帖ハ纖維ノ解離不良ナル爲メ結果ヲ紙面ニ現ハスモノアリ宜シク是
等ノ點ヲ改良センコトヲ望ム

紙受賞人員縣別表

縣名	等級	一等	二等	三等	四等	五等	六等	合計	出品點數	出品人員
三	重						二	三	六七	三四
愛	知						一	二	八	八
山	岡						二	二	四二	四二
岐	梨						五	七	三三	二二
阜	計						四	七	四八	三〇六
合	計						一〇	一	六八二	四一二

陶磁器審査復命書

岐阜縣主催第五回東海農區五縣聯合共進會出品陶磁器審査ノ概況ヲ記シ謹テ閣下ノ電覽ニ供ス

明治三十四年五月廿五日

第五回東海農區五縣聯合共進會

陶磁器審査官

農商務技手 小泉角五郎

農商務大臣林有造殿

陶磁器審査報告

岐阜縣主催東海農區五縣聯合共進會出品陶磁器ハ其點數千四百二十二點此出品人員二百三十五人ニシ

陶磁器審査報告

テ就中岐阜縣ハ品數及人員ニ於テ其過半ヲ占メ愛知縣之ニ次ク三重縣又之ニ次ク靜岡、山梨ノ二縣ハ
一點ノ出品ナシ出品ノ種類ハ磁器最モ多ク石器之ニ次キ土器ノ類ハ極メテ僅少ナリ
抑今回ノ出品ニ就テ之ヲ見レハ特ニ誇稱スヘキ優品ナシト雖モ製造技術上輕便法ヲ案出シテ工費ノ節
減ヲカメ或ハ素地、工作ノ改良ヲ計リタルノ跡歷々見ルヘキモノアルハ最モ喜フヘシ今府縣別ニヨリ
審査ノ概況ヲ列記スヘシ

三重縣 出品ハ萬古燒、丸柱燒ナリ萬古燒ハ四日市ヲ其主產地トシ三重、桑名ノ二郡之ニ次キ其品
種ハ茶器、菓子器、香爐、花瓶ノ類多ク之ヲ通査スルニ特ニ新案ヲ見スト雖モ工作可ニシテ見ルヘ
キノ佳品又尠ナカラス抑萬古燒ハ原料ノ性質ヲ應用シ模型ヲ以テ製作セル一種特得ノ石器ニシテ他
ニ其類ヲ見サルト其製品ノ比較的堅硬ニシテ價ノ廉ナルトニヨリ内外ノ需用ニ上ル尠ナカラス而シ
テ此石器ノ長所ハ其輕質ナルニ比シテ堅牢ナルト巧ニ工作ヲ施セルトニアルヲ以テ尙意匠工作ニ注
意シ益其特色ヲ發揮スヘシ就中工作ノ巧拙ハ其製品ニ重大ノ關係ヲ有スルヲ以テ當業者此點ニ注意
シ工人ノ養成ヲ圖リ益將來ノ發達ヲ企圖センコトヲ望ム

丸柱燒ハ土瓶行平等ノ日用厨具類多ク概シテ質堅硬價甚廉能ク日常ノ使用ニ適スヘシ
愛知縣 出品ハ主ニ瀬戶燒、常滑燒、犬山燒、夜寒燒ナリ

本縣ハ陶磁器製造ノ舊地ニシテ從テ瀬戶ノ清廉ナル青華器、常滑ノ赭色ナル朱泥燒ハ其ニ本會場ニ

一光彩ヲ放ツヘキモノナルニモ拘ハラス氣色大ニ振ハス僅カニ店頭ノ殘品ヲ齎シ來テ陳列シアル感
アルヲ免カレサルハ最モ遺憾トスル所ナリ

抑陶磁器ヲ稱シテ瀬戶物ト呼フヲ見テモ如何ニ瀬戶カ我邦磁器界ニ雄飛シ久シク世間ノ信用ヲ得需
用供給ヲナシ來リタルヲ證スルニ余リアルニアラスヤ然ルニ今回ノ出品ニ就テ之ヲ見レハ特ニ稱ス
ヘキ佳品ナク新窯地ノ製品却テ此等老熟ノ工業地ヲ壓スルノ勢力ヲ有スルニ至レリ噫兵語ニ所謂輸
ヲ特ニテ安ヲ貪ルモノ、破ル、所以乎惜マサルヘケンヤ

常滑燒、夜寒燒モ亦普通品ノ陳列ニシテ特殊ノ觀ヲ隱クモノ稀ナリ

犬山燒ハ丹羽郡犬山ヨリ產出スル石器ニシテ出品者二名アリ製品ハ主ニ茶器、皿、鉢、井、火鉢、

奈良茶碗等ニシテ概シテ工作、意匠ノ稍見ルヘキモノナキニアラスト雖モ尙研究ノ餘地ヲ存スルモ

ノト云フヘシ

碧海郡高濱町ヨリ炊事竈ノ出品アリ僅ニ一點ナリ雜品タルヲ免レスト雖モ價格ノ廉ナルニ比シ工作
ノ見ルヘキモノアリ

岐阜縣 出品ハ磁器其大部ヲ占メ石器類ハ極メテ僅少ナリ

磁器ハ美濃燒ト通稱シテ青華磁器多ク其產地ハ土岐郡ヲ主トシ惠那可兒等之ニ次キ其品種ハ皿、鉢、
徳利、井、奈良茶碗、煎茶器、盃、珈琲具、乳入、水注、花瓶ノ類多ク其價ノ廉ナルヲ以テ日用具

トシテ世ノ需用ニ上ル頗ル廣シ加之近來白磁ヲ製シ其產出亦盛ナリトス輓近此地方當業者ハ製品ヲシテ益廉價タラシムル汲々タルカ如ク從テ多少粗製濫造ノ嫌ヒナキニアラスト雖モ其結果トシテ著シク進歩ヲ顯ハシタルハ着書法ノ輕便ニシテ工費ヲ省減セルニアリ尙小成ニ安ンセス研究怠ラサルヲ要ス

抑又美濃磁器ハ其品質ノ脆弱ナルト形狀加飾ノ優雅ナラサルトニ於テ改良ヲ要スヘキモノアリ然レトモ此等廉價ノ日用品ヲ主トセル製品ニ於テ邊カニ形狀加飾ノ改良ヲ望ムハ云フヘクシテ行ハルヘカラスト雖モ素地ノ改良ニ至リテハ大ニ猛省セサルヘカラス當業者宜シク其欠點ニ鑑ミ專ラ改良ヲ加ヘ磁質ヲ堅硬ニシテ實用ニ適セシメ益々本品ノ聲價ヲ發揚センコトヲ力ムルハ最モ刻下ノ急務トス

大野郡亦磁器ヲ産シ灘村ヨリ一ノ出品者アリ芳園社是ナリ其製品ハ花瓶、井、皿、菓子器、香爐、煎茶器ノ類ニシテ概ネ古製ニ則リ品質堅硬ニシテ工作亦見ルヘキモノアリ尙益々改良ヲ計リ販路ノ擴張ヲ力ムヘシ

石器ハ土岐郡泉村及ヒ惠那郡阪本村、明知町吉田村等ヨリ產出シ並ニ僅少ノ出品アリ主ニ日用飲食器茶器等ニシテ工作普通ナリト雖モ價廉ナリ世需ヲ擴ムルニ足ルヘシ

不破郡赤坂亦石器ヲ産シ石傳焼ト稱ス其製品ハ花瓶、陶印、飾面、茶器等ニシテ一種ノ雅味ヲ帶ヒ

工作亦見ルヘキモノアリ尙意匠ヲ凝ラシ工作ニ注意シ益本品ノ發達ヲ期スヘシ
岐阜市亦石器ヲ産ス金華山焼ト云フ出品者僅ニ一名其製品ハ主ニ花瓶、茶器ノ類ニシテ一種ノ趣アリ然レトモ未タ佳良ナル製品ヲ見サルヲ惜ムナリ

第五回東海農區聯合共進會規則
第一章 總則

第一條 本會ハ三重、愛知、靜岡、山梨、岐阜五縣聯合シ明治三十四年四月十六日ヨリ同年五月十五日マテ日數三十日間岐阜縣岐阜市ニ於テ開設ス

第二條 本會ノ出品ヲ分チテ左ノ三區トス

第一區 農產物

- 第一類 米
- 第二類 麥
- 第三類 大豆
- 第四類 蠶繭
- 第五類 葉藍
- 第六類 葉煙草

第五回東海農區聯合共進會規則

第七類

椎茸

第八類

茶

第九類

繭

第二區 工產物

第十類

蠶種

第十一類

漆器

第十二類

紙製品

扇、團扇、傘、提灯、油圓、擬革、紙製品、密紙、紙手巾、型紙

第十三類

生絲

第十四類

絹織及其交織

第十五類

綿織、麻織、毛織及其交織物

第十六類

染物

第十七類

製造煙草

第十八類

紙

第十九類

陶磁器

第三區 參考品

第三條 本會ノ出品ハ明治三十三年一月以降ニ於ケル聯合各縣下ノ製產物ニシテ出品人自ラ製作シ又

ハ製作セシメタルモノニ限ル

但第三區ノ出品ハ本文ノ限ニアラスト雖モ其性質ニ依リ出品ヲ拒絕スルコトアルヘシ

第四條 出品ノ數量ハ左ノ如シ

米 一種ニ付粃二升

麥、大豆、蕎麥、蕪 同 一升

葉 藍 同 三株

葉 煙草 椎茸 同 百目

茶 同 一斤

蠶 種 同 同框製二枚、普通製一枚

生 絲 同 一括(凡六百目)

紙 同 帖ノモノハ二帖枚ノモノハ二十枚乃至百枚

紙製品、陶磁器、漆品 同 個ノモノハ一個又ハ二個枚ノモノハ一枚乃至十枚對ノモノハ一對組ノモノハ一組揃ノモノハ一揃打ノモノハ一打

各種織物 染物 同 反ノモノハ一反匹ノモノハ一匹本ノモノハ一本枚ノモノハ一枚又ハ二枚尺ノモノハ一丈乃至二丈總ノモノハ一總乃至三總

製造煙草 刻煙草 同 五十目乃至百目

卷煙草 同 百本乃至五百本

第五條 出品人ハ本籍寄留ヲ問ハス總テ聯合縣下ノ當業者ニシテ一戸一人ニ限ル
但營業會社其他團體モ亦本文ニ準シ出品スルコトヲ得ヘシト雖モ役員又ハ代表者ノ名義ヲ以テ出品
スルコトヲ許サス

第六條 出品ハ本會ニ於テ相當ノ保護ヲ爲スト雖モ萬一盜難、火風、震災其他避クヘカラサル事故ニ
依リ減失又ハ損傷シタルトキハ本會其責ニ任セス
蠶種發生シテ陳列シ難キニ至ルトキハ無償ニテ本會之ヲ棄却ス

第七條 出品(第一區第六類及第
三區出品ヲ除ク)ハ賣買ノ約定ヲ成スコトヲ得ルト雖モ開會中ハ場外へ搬出スルコトヲ許
サス

第二章 審査

第八條 出品(第三區
ヲ除ク)ハ總テ之ヲ審査ス

第九條 出品ノ審査ハ明治三十四年四月三日ヨリ始メ五月五日マテニ終ルモノトス

第十條 出品人ハ出品ノ再審査ヲ請ヒ又ハ授與ノ褒賞ヲ拒ミ若クハ審査ノ決定ニ對シ異議ノ申立ヲ爲
スコトヲ得ス

第三章 褒賞

第十一條 出品審査上優等ナルモノハ其出品人ニ對シ一等ヨリ六等ニ至ル等級ニ從ヒ褒賞ノ授與ヲ農

商務大臣ニ請フモノトス

第十二條 一人ニシテ數區類ニ出品シ其出品優等ナルトキハ其ノ區類ニ於テ各褒賞ヲ得ヘシト雖モ一
類内數種ヲ出スモノ、賞品ハ其内優等ナルモノ一種ニ限ルヘシ

但一類内ト雖モ異種又ハ生産製造ノ異ナルモノニシテ優等ニ位スルモノトキハ特ニ相當ノ賞狀
ノミヲ授與セラル、コトアルヘシ

第十二條 出品人ニアラサルモ本會出品種類ニ對シ功勞著シキ者ハ其存亡ニ拘ハラズ其履歷ヲ具シ功
勞賞若クハ追賞ヲ請求スルコトアルヘシ

第十四條 褒賞授與式ハ五月十二日ヲ以テ舉行ス

第四章 出品人心得

第十五條 本會ニ出品セントスルモノハ第一號雛形ニ依リ出品目録二通ヲ作り明治三十三年八月三十
一日第二號雛形ニ依リ出品解説二通ヲ作り明治三十四年二月二十八日迄ニ町村役場及郡市役所ヲ經
テ縣廳ニ差出スヘシ

第十六條 出品ハ明治三十四年三月十五日迄ニ本縣事務所ニ差出スヘシ但事務所ノ位置ハ追テ告示ス

第十七條 出品中米麥大豆蠶繭ハ麻又ハ金巾袋ニ繭ハ硬靱ナル紙袋又ハ箱ニ茶ハ鐵葉罐ニ其他ハ相當
ノ方法ヲ以テ途中散雜ノ憂ヒナキ様堅固ニ荷造ヲ爲スヘシ前項ノ出品ニハ番號品名出品人ノ住所氏

名ヲ記シタル小札ヲ毎品ニ添付スヘシ

第十八條 出品陳列臺及飾箱等ハ本會ニ於テ設備スヘシ

第十九條 出品ノ陳列ハ明治三十四年四月一日ニ始メ同月十五日迄ニ終ルモノトス

第二十條 出品ハ閉場後十日ヲ限リ場外ニ搬出スヘシ

第五章 參觀人心得

第二十一條 開會中ハ毎日午前第八時ヨリ午後第四時マテ衆庶ノ參觀ヲ許ス但都合ニ依リ本文時間ヲ伸縮シ又ハ臨時入場ヲ止ムルコトアルヘシ

第二十二條 參觀人ハ必ス入場券ヲ携へ退出ノ際之ヲ返還スヘシ但入場料ハ金壹錢トス

第二十三條 瘋癲又ハ醉狂其他妨害ノ恐アル者ト認ムルトキハ入場ヲ拒絕シ或ハ會場外ニ退去セシムルコトアルヘシ

第二十四條 手荷物ヲ携帯シ又ハ畜類ヲ牽キテ入場スルコトヲ許サス

第二十五條 陳列場内ニ於テ吸煙スヘカラス

第二十六條 參觀人ハ本會委員又ハ看護人ノ承諾ヲ得ルニアラサレハ列品ニ手ヲ觸ル、コトヲ得ス

第二十七條 出品ヲ摸寫シ又ハ會場ヲ攝影セント欲スルモノハ本會事務所ノ許可ヲ受クヘシ

第六章 事務

第二十八條 本會ニ事務所ヲ設ケ左ノ職員ヲ置ク

事務長 一人

審査長 一人

事務委員長 一人

審査官 若干人

事務委員 若干人

審査員 若干人

書記 若干人

第二十九條 事務長ハ開設地ノ知事ヲ以テ之ニ充テ本會一切ノ事務ヲ統理スルモノトス

事務長事故アルトキハ事務委員長ニ代理セシメ又ハ事務ノ幾部ヲ委任スルコトアルヘシ

第三十條 審査長及審査官ハ農商務省ヨリ出張ヲ請フモノトス

審査長ハ出品審査ニ關スル諸規程ヲ定メ出品審査ノ事務ヲ統理ス

審査官ハ審査長ノ指揮ヲ承ケ出品ノ審査及之ニ關スル事務ヲ分掌スルモノトス

第三十一條 事務委員長ハ開設地ノ書記官ヲ以テ之ニ充テ事務長ノ指揮ヲ請ケ庶務ヲ調理スルモノトス

事務委員長事故アルトキハ事務委員中ニ代理ヲ命シ又ハ事務ノ幾部ヲ分任スルコトアルヘシ
第三十二條 事務委員ハ聯合各縣委員ノ中ヲ以テ之ニ充ツ

事務委員ハ事務長及事務委員長ノ指揮ヲ請ケ事務ヲ分掌スルモノトス
第三十三條 審査員ハ聯合各縣ニ於テ人撰シ本會ニ於テ命スルモノトス

審査員ハ審査長審査官ノ指揮ヲ請ケ出品ノ審査ニ從事スルモノトス
第三十四條 書記ハ事務委員長之ヲ命スルモノトス

書記ハ事務委員長及審査官ノ指揮ヲ請ケ記録計算等ニ從事スルモノトス
第三十五條 處務規程看守人及門衛服務心得宿直規程ハ事務長ニ於テ別ニ之ヲ定ム

(第壹號) 用紙美濃紙

第五回東海農區五縣聯合共進會第何區

第何類出品目錄

何國何郡(市)何町(村)番戶

何 某

番	號	品	名	名	稱	數	量	買	價

右出品候也

右

何 某

某

印

明治三十三年 月 日

知 事 宛

(備考)

一番號ハ一類毎ニ起スモノトス

一本目錄ハ一類毎ニ別紙ニ認ムヘシ

一非賣品ハ賣價ノ欄ニ原價ヲ記シ尙其價格ノ肩ニ非賣ノ二字ヲ朱書スヘシ

(第貳號) 用紙美濃紙

一 米、麥、大豆、蠶繭、葉藍、葉煙草ノ出品解説ハ左ノ例ニ依ルヘシ

第五回東海農區五縣聯合共進會第何區第何類出品解説

何國何郡(市)何町(村)番戶

何 某

第五回東海農區聯合共進會規則

番	號	品	名	稱
作	第一號	作付反別	何反步	第二號同何畝步
培	第一號	砂土壤	第二號	埴土礫土
收	第一號	一反步	收穫高	何石何斗
改	第一號	改良事蹟	アルモノ	ハ記載スヘシ
販	何處	路	賞	博覽會共進會等ニテ褒賞ヲ受ケタルモノハ之ヲ記載スヘシ
審	要領	ヲ請フノ主眼	記載スヘシ	

右之通ニ候也

右

明治 年 月 日

何 某 印

知 事 宛

一 惟其其他ノ解説ハ作付反別、土質、培養、收穫ノ四欄ヲ除キ爾ハ掃立蟻量、飼育法、産額ノ三欄ヲ

蠶種ハ掃立蟻量、飼育法、製造法、産額ノ四欄ヲ加ヘ其他ハ製造法、産額ノ二欄ヲ加フヘシ其例左ノ如シ

繭解説

掃立蟻量	何	分
飼育	温度日數給桑量等ノ要點	分
産額	一ケ年ノ産額ヲ記載スヘシ	

蠶種解説

掃立蟻量	何	分
飼育	温度、日數、給桑量等ノ要點	分
製造	製造ノ概要(普通ノ製法ナレハ記載セサルモ妨ナシ)	
産額	一ケ年ノ産額ヲ記載スヘシ	

椎茸、茶、漆器、紙製品、生絲各種織物、染物、製造煙草、紙、陶磁器解説

製造	何々(普通製法ナレハ記載セサルモ妨ナシ)
産額	一ケ年ノ製産價格ヲ記載スヘシ

一 參考品目錄及解説ハ前ノ例ニ倣ヒ調製スヘシ
褒賞一覽表

縣名	品名	一等	二等	三等	四等	五等	六等	合計
重	米	○	○	○	○	○	○	○
三	大麥	○	○	○	○	○	○	○
	蠶	○	○	○	○	○	○	○
	繭	○	○	○	○	○	○	○
	紙	○	○	○	○	○	○	○
	漆	○	○	○	○	○	○	○
	蠶繭	○	○	○	○	○	○	○
	茶	○	○	○	○	○	○	○
	椎葉	○	○	○	○	○	○	○
	葉	○	○	○	○	○	○	○
	煙	○	○	○	○	○	○	○
	葎	○	○	○	○	○	○	○
	草	○	○	○	○	○	○	○
	藍	○	○	○	○	○	○	○
	菘	○	○	○	○	○	○	○
	豆	○	○	○	○	○	○	○
	製	○	○	○	○	○	○	○
	造	○	○	○	○	○	○	○
	煙	○	○	○	○	○	○	○
	草	○	○	○	○	○	○	○
	製	○	○	○	○	○	○	○
	紙	○	○	○	○	○	○	○
	陶	○	○	○	○	○	○	○
	磁	○	○	○	○	○	○	○
	計	○	○	○	○	○	○	○
	合	○	○	○	○	○	○	○
	計	○	○	○	○	○	○	○

縣名	品名	一等	二等	三等	四等	五等	六等	合計
知	米	○	○	○	○	○	○	○
愛	大麥	○	○	○	○	○	○	○
	蠶	○	○	○	○	○	○	○
	繭	○	○	○	○	○	○	○
	紙	○	○	○	○	○	○	○
	漆	○	○	○	○	○	○	○
	蠶繭	○	○	○	○	○	○	○
	茶	○	○	○	○	○	○	○
	椎葉	○	○	○	○	○	○	○
	葉	○	○	○	○	○	○	○
	煙	○	○	○	○	○	○	○
	葎	○	○	○	○	○	○	○
	草	○	○	○	○	○	○	○
	藍	○	○	○	○	○	○	○
	菘	○	○	○	○	○	○	○
	豆	○	○	○	○	○	○	○
	製	○	○	○	○	○	○	○
	造	○	○	○	○	○	○	○
	煙	○	○	○	○	○	○	○
	草	○	○	○	○	○	○	○
	製	○	○	○	○	○	○	○
	紙	○	○	○	○	○	○	○
	陶	○	○	○	○	○	○	○
	磁	○	○	○	○	○	○	○
	計	○	○	○	○	○	○	○
	合	○	○	○	○	○	○	○
	計	○	○	○	○	○	○	○

第五回東海農區聯合共進會規則

第五回東海農區聯合共進會規則

二百七十三

梨 山											縣																
米	麥	大	蠶	葉	葉	茶	繭	蠶	漆	紙	生	絹	織	綿	織	及	織	其	麻	交	織	物	織	毛	織	染	
米	麥	蠶	蠶	蠶	蠶	蠶	蠶	蠶	蠶	蠶	蠶	蠶	蠶	蠶	蠶	蠶	蠶	蠶	蠶	蠶	蠶	蠶	蠶	蠶	蠶	蠶	蠶
製	造	煙	草	製	器	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	
合	陶	紙	製	計	器	草	計	器	草	計	器	草	計	器	草	計	器	草	計	器	草	計	器	草	計	器	
○	○	-	○	○	○	○	-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	

岡 靜											縣															
米	麥	大	蠶	葉	葉	茶	繭	蠶	漆	紙	生	絹	織	綿	織	及	織	其	麻	交	織	物	織	毛	織	染
米	麥	蠶	蠶	蠶	蠶	蠶	蠶	蠶	蠶	蠶	蠶	蠶	蠶	蠶	蠶	蠶	蠶	蠶	蠶	蠶	蠶	蠶	蠶	蠶	蠶	蠶
製	造	煙	草	製	器	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種	種
合	陶	紙	製	計	器	草	計	器	草	計	器	草	計	器	草	計	器	草	計	器	草	計	器	草	計	器
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

二百七十二

シ出品ヲ審査スルニ當リテ附點用紙ヲ一定シ及ヒ各部評點數ノ割合宜キヲ得ルハ最モ緊要ノ事タリ故ニ爾後共進會ヲ開設スルニ當リ正確ナル附點用紙ヲ作り其評點ノ割合ヲ定ムルニハ小心熟慮能ク其權衡ヲ誤ルナカランコトヲ期シ且ツ開會ノ都度審査長ノ意見ニヨリ變更スルカ如キコトナク必スヤ畜産改良ノ方針ヲ基トシテ豫メ斯業ノ改良ヲ謀ラントスルモノヲシテ其適從スル所ヲ知ラシムヘキナリ從來本邦ニ於テ屢次博覽會又ハ共進會開設セラレ動物ノ出品アリタリト雖トモ未タ曾テ其用途ニヨリテ區分ヲ設ケタルヲ見ス然ルニ今回ノ共進會ニ於テハ其用途ニヨリテ出品ノ區分ヲ異ニシタルカ爲メ其審査極メテ容易ニシテ且ツ其正鵠ヲ得タリシハ實ニ一新生面ヲ開キタルモノト謂フヘシ若シ夫レ出品ノ同一種ナルニヨリ其用途ノ如何ヲ論セス單ニ牛馬羊豚ノ各種ニ別チテ混同出陳セリトセンカ何レノ點ヲ取リテ以テ相互ノ優劣ヲ品評スヘキ其審査繁雜ニシテ而カモ其緊要ヲ得ンコト甚タ難キハ言ヲ待タサルナリ

賞與ノ數ニ制限アルハ固ヨリ經費ニ關係ヲ有スルモノニシテ事項止ムヲ得サルヘシト雖トモ動物ノ如キハ他ノ製造品等ト異リ各々一ノ特色ヲ有スルモノナレハ出品總點數ノ多寡如何ニ拘ラス賞スヘキハ悉ク之レヲ賞スルノ方針ヲ取ラサルヘカラス故ニ四等以上ノ賞與ハ若干ノ制限ヲ設クルハ可ナランモ五等以下ノ賞與ニ至リテハ制限ヲ設ケス唯賞狀ヲ授與スルコト、ナサバ可ナラン又今回ノ共進會ニ於テハ規則第二十條ヲ以テ一人ニシテ一種類ニ屬スル數頭ノ動物ヲ出品シタルトキハ其優等ナルモノニ

賞與ヲ與ヘ他ハ之レヲ與ヘサルコト、規定セラレタリ斯ノ如キハ賞與授與ノ運用ヲ缺カシムルモノニシテ大ニ獎勵ノ主旨ニ悖辰スヘシ故ニ賞品ハ其最優等ノモノ一ニ授與シ他ハ賞狀ヲ授與シ以テ賞スヘキハ必ラス賞スルノ道ヲ開キ出品人ヲシテ遺憾ナカラシメンコトヲ望ム

本會ニ於テ功勞賞ヲ得タルモノ一名アリ抑モ追賞及ヒ功勞賞ハ本會規則ニ定ムルカ如ク牛馬羊豚ノ改良蕃殖上特別ノ功勞アルモノニ授與スルモノニシテ聯合各府縣廳ハ其事實ヲ調査シテ之レヲ審査長ニ呈出シ審査長ハ其文書ニ就キ當否ヲ審案シテ具申スルニアリ蓋シ追賞及ヒ功勞賞ヲ與フルハ畜産獎勵ノ方法トシテ必要ナリト雖モ動モスレハ舞文曲筆自己ノ功勞ヲ揚ケ或ハ事實ヲ誇張スルノ徒ナキヲ保スヘカラス若シ斯ノ如キモノアラハ實ニ濫賞ノ弊ヲ貽スモノニシテ却テ獎勵ノ意ニ反スルモノト謂ハサルヘカラス故ニ將來各府縣ノ當局者此等ノ文書ヲ調査スルニハ最モ嚴密ニ事實ヲ查覈シ責任ヲ帶ヒテ呈出セラシムコトヲ望ムモノナリ

本會ハ京都、大阪、奈良、兵庫ノ二府二縣ノ聯合ニシテ京都府其主催トナリ京都府ニ之レヲ開設シタリ出品ノ動物ハ牛、馬、山羊、豚ノ四種ニシテ其總數合計二百點即チ牛百六十六頭、馬九頭、山羊十九頭、豚十五頭トシ出品人員百四十一名即チ京都六十八名、大阪三十三名、兵庫三十一名、奈良九名トシ受賞者ハ總計三十五、即チ一等賞四、二等賞七、三等賞十三、四等賞十一ナリトス

本邦ニ於テ純然タル家畜共進會ヲ開設シタルハ先キニ三十三年十月島根縣ニ開キタル中國五縣聯合家

京都府主催開設第一回京攝府縣聯合家畜共進會復命書

畜共進會ヲ以テ權輿トシ之レニ次クハ即チ本會ナリトス斯クノ如ク家畜共進會ノ開設ハ本邦ニ於テハ事創始ニ屬スルニモ拘ラス前陳ノ如キ多數ノ出品アリ頗ル盛況ヲ見タリシハ固ヨリ當局者ノ勸誘宜キヲ得タルニ由ルト雖モ亦タ世人カ家畜改良ノ急務タルヲ認ムルニ至リタル結果タラスンハアラス蓋シ共進會又ハ品評會等ヲ開キ衆多ノ出品ヲ一場ニ網羅シ其優劣ヲ比較シ美惡ヲ品臨スルハ大ニ競争奮發ノ念ヲ喚起セシメ實業ノ改善進步ヲ誘フニ就テ最モ有功ノ方法タリ故ニ本業ノ發達ト共ニ益々各地ニ家畜共進會ヲ開設センコトヲ希望スルモノニシテ政府當局ニ於テハ審査ノ方法ヲ一ニシ益々之レカ完全ヲ謀リ各動物ノ種類用途ニ從ヒ改良スヘキ要點ヲ示シ以テ着々改良ノ效果ヲ舉クルノ設備方法ヲ設ケサルヘカラス

出品動物ノ評言ハ各審査官復命書ニ詳カナルヲ以テ茲ニ之レヲ述フルノ要ヲ見スト雖モ今少シク概評ヲ下セハ京都府ハ京都市及ヒ其附近ヨリ乳牛ヲ出品シタルモノ多ク大阪府ハ郡部ノ出品多クシテ兵庫縣産ノ和牛其多數ヲ占メタリ兵庫縣ハ當時神戸市ニ鼠口瘡發生シツ、アリシカ故ニ其出品ハ悉ク郡部ニ屬シ爲メニ市ノ出品ニ係ル乳牛一頭ヲモ見ル能ハサリシハ實ニ恨事ナリ奈良縣ノ出品最モ少カリシハ亦大ニ遺憾トセシ所ナリキ思フニ一場ノ共進會ヲ觀テ以テ其地方ニ於ケル斯業ノ全體ヲ評論スヘキニアラスト雖モ今茲ニ本會ニ於ケル現狀ヲ以テ直チニ各府縣ニ於ケル家畜界ノ反映ナリト假定センカ京都ハ「シンメンター」或バ「ホルスタイン」若クハ「エーアシャ」等ノ種牛ヲ入レ銳意熱心ニ改善ヲ謀

リツ、アルカ如シ大阪モ亦之レニ亞クノ觀ナキニアラスト雖モ其數惜ムラクハ僅少ニシテ改良ノ成績見ルニ足ルモノナキヲ憂フ兵庫縣ハ由來我邦ニ於ケル牛畜ノ大産地ヲ以テ稱セラル宜ナルカナ最モ良好ナル和牛ノ出品アリ然レトモ奈何セン更ニ改良進步ノ顯象ヲ認ムルコト能ハス而シテ斯ノ如キ最良本ニ於ケル産牛地タルノ地位ヲ維持スルハ容易ノ業ナランモ今ニシテ猛省スル所ナク今回ニ於ケルカ如キ顯象ニ満足シテ其改良ヲ閉却センカ永ク日本ノ産牛地タルノ聲譽ヲ失墜セサラント欲スルモ斷シテ得ヘカサルナリ奈良縣ニ至リテハ其出品寥寥トシテ亦更ニ優物ナク殆ト他ノ二府一縣ノモノニ比スヘキナシ而シテ今回ノ出品ニシテ其改良シタリト稱スル動物ヲ視ルニ種類頗ル雜駁ニシテ殆ト改良ノ目的何レニ存スルカヲ知ルニ苦マサルハナシ一回ハ「ホルスタイン」ノ雜種ヲ作り之レニ「エーアシャ」種ヲ交ヘ復タ之レニ「デボン」ヲ配スルガ如キ毫モ事其一ニ出ル所ナキハ誠ニ遺憾ナリトス畜牛ノ改良ヲナサントスルモノ宜ク初メニ其目的ヲ立テ一種類ヲ以テ飽クマテモ繼續センコトヲ希望ニ堪ヘサルナリ

牛ノ出品ハ使役牛、肉用牛、乳用牛、兼用牛ニ別テリ然ルニ就中最モ遺憾ニ堪ヘサリシハ乳用牛中ニ搾乳期中ノモノ少ナカリシニ在リ歐米ニ於ケル乳牛共進會ハ盛ニ乳汁ヲ分泌シツ、アル所ノ牛畜ヲ出品シ其體貌ハ勿論乳量乳質ヲ審査シ其優劣ヲ品評スルニ在リ斯ノ如クニシテ始メテ其審査宜キヲ得タ

ルモノト謂フヘシ然ルニ本會ニ出品セル乳牛ハ概ネ既テニ搾乳期ヲ經過セシモノニシテ其乳量乳質ヲ
 審査スルヲ得サリシハ遺憾トスル所ナリ又肉牛ノ區内ニハ必ス閏牛ノ出品多カランコトヲ豫想セシニ
 之レニ反シテ多クハ牝牛ニシテ閏牛ハ僅カニ二三頭ニ過キサリシ此ニ由リテ之レヲ觀レハ我邦ニ於テ
 未タ去勢術ノ普及セサルヲ窺フニ足ルヘシ特ニ本邦ノ如キ現時牛畜ノ少數ナルニ去勢術ノ盛ニ行ハレ
 サルハ實ニ遺憾トスル所ニシテ其運搬用又ハ肉用ニ供スル牛畜ニ去勢ヲ施スハ最モ必要ノ事タリ宜シ
 ク牛種ノ改良ヲ獎勵スルト同時ニ去勢術ノ普及ヲ謀ルヘキナリ
 馬、山羊、豚ノ出品少ナカリシハ遺憾トスル所ニシテ又熟レモ見ルヘキモノナシ宜シク良種畜ヲ入レ
 大ニ改良ヲ促スヘキナリ

本會出品物ノ外參考品トシテ乳肉ノ製造品及ヒ製造器具並ヒニ圖書等ヲ出品シタルモノアリ是レ誠ニ
 美事ナリト謂フヘシ而シテ歐米諸國ノ家畜共進會ニハ獨リ牛馬羊豚ノ出品ノミナラス乳肉ノ製造品及
 ヒ其製造ニ要スル器具器械、農具、馬車、馬具、牛具等ニ至ルマテ出陳セルヲ見ル斯クノ如ク爾後本
 邦ノ家畜共進會ニ於テモ此等ノ物件ヲ出陳スルニ至ラハ本業ノ改良發達ヲ裨益スル其効鮮少ナラサル
 ヘシ

右譯ヲ復命ス

明治三十四年十一月十九日

第一回京攝府縣聯合家畜共進會審査長

農商務技師 新山 莊 輔

農商務大臣平田東助殿

牛審査復命書

第一回京攝府縣聯合家畜共進會ニ出陳セラレタル牛ハ總計一百六十六頭馬ハ九頭山羊ハ十九頭豚ハ十
 五頭ニシテ他ノ家畜共進會ノ規則ト異リ出品ハ各動物ノ用途ニ從テ部類ヲ分チ其部類中ニ數區ヲ設ケ
 而シテ其出品ヲナサシメタルハ家畜共進會ニ關シ一段ノ進歩タルヲ賞スルニ足ル然ルニ其區分法ニ於
 テハ未タ完全ナラサル所アルヲ以テ實際ニ膺リ大ニ困難ナルモノアリ仍テ審査ヲ始ムルニ先タチ新山
 審査長ヨリ動物ノ用途ニ從ヒ審査スヘキ方法ノ附點用紙ヲ下付シ着手ノ順序審査ノ目的ニ付キ親ク命
 令アリシヲ以テ詳カニ其審査ヲ結了セリ

第一京攝府縣聯合家畜共進會規則第一章ニ出品ヲ分テ四部八區トシ第一部ハ牛ニシテ其第一區ハ運搬
 及ヒ耕用トシ其第二區ハ肉用トシ其第三區ハ乳用トシ其第四區ハ兼用トス第二部ハ馬ニシテ其第一區
 ハ乘用及ヒ競走用トシ其第二區ハ耕用及ヒ運搬用トス第三部ハ羊豚ニシテ其第一區ハ乳用及ヒ毛肉用
 トシ其第二區ハ肉用トス第四部ハ參考品ナリ斯クノ如ク各部ニ各區ヲ設ケ其用途ニ從テ出品ヲナサシ
 メシ方法ナレトモ各區中ニ甚タ繁雜ナルモノアリ他ナシ第一部ハ牛ニシテ第一區ハ京都府ニ於テハ耕

牛審査復命書

用、農用、耕用兼肉用、耕用兼山谷運搬用、運搬兼肉用、農用兼肉用、牛車挽用トシテ出品アリ大阪府ニ於テハ耕用、農用、挽車、耕用、使用トシテ出品アリ兵庫縣ニ於テハ耕用、運搬兼耕用ノ出品アリ奈良縣ニ於テハ耕用ノミノ出品アリ其第二區ニ就キテハ京都府及ヒ奈良縣ハ肉用トシ兵庫縣ハ肉用、肉用兼耕用トシテノ出品ニシテ大阪府ヨリハ此區ニ出品ナシ其第三區ニ就キテハ京都府ハ乳用、畜殖用、乳用兼用トシ大阪府、兵庫、奈良ノ二縣ハ乳用トシテノ出品アリ第四區ハ規則ニ兼用トアル區ナリ特リ大阪府ハ耕用兼肉用トシテノ出品アルモ京都府及ヒ兵庫縣ノ如キ和牛ノ出品多キ地方ニアリテハ悉ク之ヲ第一區ノ第一區内ニ出品セリ奈良縣ヨリハ一頭ノ出品モナシ第二區ハ馬ニシテ京都府ヨリ第一區ニ兼用ヲ第二區ニ耕用及ヒ運搬用ノ出品アリシニ過キス第三區ハ羊豚ナリ其第一區ハ山羊ノミニシテ京都大阪二府ヨリノ出品ニ止マル其第二區ハ豚ニシテ京都府ハ肉用及ヒ畜殖用トシ大阪府ハ肉用及ヒ種用トシ兵庫縣及ヒ奈良縣ハ肉用トシテ出品ナリ夫レ斯ノ如ク各部ノ各區ニ於ケル用途ニ從ヒ其動物ヲ類別スレハ和牛ノ出品多キ地方ニアリテハ實ニ其動物ヲ各區ノ的當ナル區中ニ當儀メ難キモノ往々是レアリ第一區ノ第四區ニ兼用ノ區設ケアルニモ拘ラス第一區第二區第三區ニ兼用動物ノ出品ヲナスモノアルアリテ大ニ審査上ニ混雜ヲ來セリ若シ夫レ其第一部ノ各區ヲシテ役用、乳用、肉用トシテ區分シ兼用ヲ要スルノ場合ニ於テハ役用ヲ主トシ肉用ヲ兼スルモノハ役用ノ内ニ出スカ又ハ役用兼肉用ノ區ヲ設クルカ如ク細密ニ區分スレハ大ニ審査上ノ煩雜ヲ來スノ憂ナカラシ

今回ノ牛類ヲ見ルニ京都府ノ如キ兵庫縣ノ如キ和牛ノ名産地トシテアル地方ニ於テハ勢ヒ他管下ヨリモ和牛ニ夥多ノ出品アリ規則上第一部ノ第一區ニハ耕用及ヒ運搬用トアリ其第四區ニハ兼用トアリ然ルニ實際ニ於テハ耕用ニノミ供シテ他ノ使役ヲナサシメサルモノアリ或ハ肥料ヲ得ルノ目的ヲ以テ傍ラ畜殖ヲ圖ルモノアリ或ハ畜殖モ圖ラスシテ單ニ肥料ヲノミ得ルノ目的ヲ以テ飼養スルモノアリ或ハ耕作ノ使役ハ實ニ一ケ年内僅々ノ日數ナルヲ以テ其他ハ農業上諸般ノ用途即チ雜用ニ向テ飼養スルモノアリ和牛ハ從來但馬、丹後、美作、備中等ニテ産出スル所ノモノナレハ敢テ著シキ改良ノ進歩ヲ見スト雖トモ唯々其内ニ若干ノ良種ヲ出陳シアルニ過キス又タ肉牛ハ和牛ヲ肥臘シタルモノニシテ是亦三丹因伯等ニ從來施行スル所ノ慣習法ニ過キス彼ノ歐米濠洲等ニ於テ肉牛トシテ實行セル所ノ肥臘法ノ如キ方法ニ依テ肥臘シタルモノアルヲ見ス是故ニ舊慣ニ安ンシ致々及々トシテ更ニ文明ノ域ニ潤歩セント欲スルモノナシ

又乳牛ニアリテハ善良ナル純粹種ナルモノナキニアラスト雖トモ然レトモ實ニ僅々ノ「ホルスタイン」種「エーアシャー」種「シンメンタール」種ノ出陳アルヲ見ルニ過キス又其雜種ノ多キハ「ホルスタイン」種ノ血系ヲ襲クモノニシテ之ニ亞クモノハ「エーアシャー」種ノ血系ヲ襲クモノナリ其他「デボン」種又ハ短角種等ノ血系アルモノト錯雜シタル血系ニヨリ組成セラレタル雜種ノ出品アルヲ見ル

馬ノ出陳ハ悉ク他管下ヨリノ輸入ニシテ下總、鹿兒島、能登等ノ産出ニ係ルモノナリ誠ニ賞スヘキモ

ノニ乏シ實ニ僅々ノ頭數ナリ其詳細ハ功力審査官ヨリ復命セラレタル趣ナルヲ以テ茲ニ贅セス
山羊ノ出陳ハ京都大阪ノ二府ニシテ孰レモ純粹種タルモノアルヲ見ス「ニユービヤ」種ノ如キ「チベッ
ト」種ノ如キ「アングラー」種ノ如キ皆其雜種ナリ然レトモ其出陳中ニハ多少優劣アルモ最良ナル種類
ナシ

豚ニ於ケルモ亦然リ大阪府ヨリ出陳セシ豚ノ如キ稍見ルヘキ所アルモ最良種ニハアラサルナリ出陳
ノ豚中往々屠豚ニ劣レルモノアリ

此ノ如キ實況ナレハ畜産ノ改良ハ一日トシテ忽諸ニ付スヘカラサルヲ知ルヘシ

京都大阪ノ二府兵庫奈良ノ二縣ニヨリテ聯合セラレ就中京都府其主催ニシテ初メテ第一回ノ京攝府縣
聯合家畜共進會トシテ開會セラレタリトセハ實ニ其獎勵宜キニ從ヒ斯ル多數ノ家畜ヲ出陳セラレタリ
ト雖モ然レトモ今日ノ出品動物ヲ以テ誇ルニ足ラス今日ノ一二等ニ算スヘキノ良畜ハ他日ノ六七等ニ
モ劣ルヘキニ達セントスルノ時期ニ際會スルヤウ進歩ヲ來サ、ルヘカラス今日ノ和牛未タ改良ニ向テ
著シキ標的モナク又改良ヲナサ、ルヘカラルノ必要ヲ感スルモノモ少ナシ要スルニ祖先傳來ノ良畜
ト仰ク所ノモノヲ繼續蕃殖シ居ルニ過キス實ニ畜産ノ事業到ル處文明進步ノ活氣ニ乏キハ誠ニ以テ憂
フヘキノ至リナラン夫レ歐洲ノ強國ハ各國ヲ問ハス二百餘年ノ星霜ヲ經テ初メテ今日ノ如キ著名ナル
肉用種ヲ作出シ乳用種ヲ作出シ又役用種ヲ作出セリ加之其各種中ニモ種々様々ノ最良ナル純粹種ヲ產

出シタリ京攝地方ニ於テハ和牛ハ如何ナル方法ヲ以テ改良ノ目的ニ達シ得ヘキヤ乳牛ハ如何ニセハ可
ナランカ役牛モ然リ今ヤ泰西ノ農學ハ開ケ獸醫學ハ開ケ博士アリ學士アリ實驗者アリ調査ノ任ニ乏シ
カラス因循姑息ノ時ニアラス今ニシテ將來ヲ推測シ確乎不拔ノ目的ヲ立テ一定不變ノ精神ヲ以テ大ニ
畜産改良ノ手段方法ヲ講スルニアラサレハ今日ノ家畜共進會ハ一大觀物ニ止マリ官民共ニ多額ノ金額
ヲ空費シ貴重ノ光陰ヲ空費スルニ過キスシテ將來ニ向テ何タル自益國益モアラサルヘシ大ニ猛省セサ
ルヘケンヤ

謹テ茲ニ復命ス

明治三十四年十一月十四日

農商務省囑託員

第一回京攝府縣聯合家畜共進會審査官

從六位勳六等 村上 要 信

農商務大臣平田東助殿

馬、山羊及豚審査復命書

本年十月一日ヨリ京都市ニ開催ノ京攝區聯合家畜共進會馬羊豚審査官トシテ同市へ出張被命九月廿四
日當場出發全月廿五日着全廿六日ヨリ審査ノ準備ニ着手シ十月一日午後ヨリ出陳家畜ノ査定ニ從事十
馬山羊及豚審査復命書

月四日結了擬賞報告ヲ審査長ニ呈シ已降殘務ヲ取り經テ全月十三日歸場仕候別紙審査報告書相添ヘ此段復命候也

審査官

明治三十四年十一月

種牛牧場技師 功力 直道

農商務大臣平田東助殿

馬、山羊及豚審査報告

京攝區聯合家畜共進會馬羊豚ノ出陳數ハ四十三頭ニシテ出品人員二十一名ナリ如斯出陳數ノ僅少ナルハ蓋シ馬匹ハ其生産地ニアラスシテ所謂使役地ナルニアツ山羊ハ飼養者ノ目的搾乳ニアリテ應用ノ範圍未タ狹隘ナルニ由リ豚ハ關西地方養豚ノ盛ナル神戸市ニ爲口瘡流行シ神戸市附近ヨリ出陳ナキ等ニ原因セルモノナラン前陳ノ如ク小官審査擔任ノ出陳家畜頭數僅少ニシテ詳細ノ批評ヲ茲ニ陳述シ能ナルハ甚遺憾トスル處ナリ

馬匹ノ出陳アリシハ獨リ京都府ノミニシテ其數僅ニ九頭ナルヲ以テ同府下ニ於ル馬匹ノ一斑タモ窺フコト能ハス又出陳馬匹ノ生産地ハ頗ル雜駁ニシテ北海道鹿兒島下總能登産等ニシテ供給地方モ一定セズ用途ニ由テ區分スレハ乘用輕車用多ク農用又ハ駄用ハ鮮ク從テ骨格纖細孱弱ノ馬匹ニシテ實用ヨリハ寧ロ外貌上ノ華美ニ重ヲ措キタルノ馬匹多シト云サルヘカラス而シテ茲ニ京都府ヲ馬匹ノ使役地方

ト假定シ相當ノ改善ヲ希望シテ止サルハ馬匹ノ護蹄法ニシテ出陳ノ馬匹中削蹄及裝鐵ノ完全ナルモノハ殆ト皆無ニシテ假令ハ削蹄ノ時期ニ達スルモ削蹄セサルヲ以テ蹄壁延長肢勢蹄形ニ變狀ヲ招來シ或ハ裝鐵馬ニシテ削蹄或ハ裝鐵法ノ宜キヲ失ヒタルモノアリ是等ハ馬匹ノ保存年限ニ至大ノ關係ヲ有スルハ多辯ヲ要セス殊ニ近年良馬ハ益高價ニシテ容易ニ得易カラサルノ時ニ際シ馬匹ノ使役地方トシテハ馬匹ノ保存法ハ大ニ留意スヘキノ事ナリトス

山羊ノ出陳アリシハ京都及大阪ノ二府ニシテ其數十九頭出品人員四名ニシテ二府出陳ノ種類ハ散テ優劣ナク「チベット」及「スピヤ」種ナリト云フモ純粹種ニハアラサルヘク否ラサレハ配合法ノ宜キヲ失シタルヨリ大ニ体格ヲ破壞シ退却倭縮セルモノト評セサルヘカラスシテ新鮮ナル良血液ノ注入ヲ要スルモノナルヤ言フ俟タス山羊ノ繁殖ハ曾テ彼此ニ隆起シタルノコトアルモ今ヤ再ヒ衰退シ僅ニ該族ヲ繼續スルニ過キサルノ狀況ニ陥レリト雖地方及程度ヲ限リ獎勵スヘキノ事業ニシテ山羊ノ用途ヲ考フレハ皮革、毛、乳肉、脂肪、角骨等ニシテ又飼料管理ノ容易ナルハ他ニ其比類ヲ視サルノ家畜ニシテ我中國地方ノ如ク丘陵起伏シ瘠薄ノ山地ニ放養セハ小灌木雜草ヲ絶チ土地ヲ肥沃トナシ後年ニハ良好ナル生草地トナスノ効アルハ既ニ歐米ニ利用セラル、ノ方法ナルノミナラス工業ノ進歩ニ伴ヒ山羊ノ製革及毛ノ需用ハ益増加スルハ米國等ノ事例ニ徵スルモ明瞭ニシテ(米國最近ノ統計ニ由レハ山羊皮革ノ輸入元價一千五百五十萬弗ナリ)其乳汁ハ格言ノ所謂貧者ノ乳牛ニシテ泌乳量多カラサルモ一頭ヲ飼養セハ數人ノ需用ヲ充スニ足ルヘク「カシ

馬山羊及豚審査報告

ミヤ」或ハ「アングラ」種ノ如キハ粗毛一ケ年五英斤ヲ産スルノ外其軟毛ハ高價ナル「カシミヤ」絨氈或ハ膝掛ケ等ノ材料タリ實ニ山羊ハ決シテ看過スヘカラサルノ家畜タルモ本邦ニ於ケル畜養者ノ増加セサルハ未タ多數ノ頭數ヲ飼養スルモノナク從テ適々飼養ヲ試ント欲スルノ輩アルモ稀少ニシテ容易ニ購入シ能サルニ由ルナラン乎山羊ハ熱帶及温帶ニ生棲スルノ家畜ニシテ本邦ニ於ル飼養ノ地域極メテ廣シ今全世界ニ飼養スルノ山羊頭數ハ四千二百萬以上ニシテ之ヲ洲別スレハ北亞米利加二、〇五〇、〇〇〇南亞米利加三、八六二、八三八歐羅巴二、八二二、二一八亞細亞二、七四五、二二八亞弗利加一一、四五一、八五九濠洲一一〇、一四六大洋洲二二、一〇二ナリ又以テ需用ノ廣キヲ證明スルニ足ラン希クハ小農家ニ數頭ヲ飼育セシメ探乳ノ傍ラ皮毛ノ收利ニ留意セシムレハ裨益スル處尠カラス

豚ノ出陳數ハ大阪府二頭、兵庫縣一頭、京都府四頭、奈良縣八頭、合計十五頭ニシテ出陳人員九名ナリ種類ハ在來種居多ニシテ洋種ト稱スルモノト雖モ雜種ニ近ク種類ノ標兆判明ナルモノ鮮キハ良好ナルノ種豚ニ乏シキノ結果ナラン乎殊ニ奈良縣ヨリ出品セルモノ、如キハ蕃殖用トシテ出陳セルモ其價値尠キノ種類ト云ハサルヘカラス大阪府出陳ノ「ベルクシャイア」種ハ稍良好ナルモ白斑廣布シ後半身倭縮セリ其他ハ体ノ均稱ヲ失シ頭部過大四肢長ク体ノ幅員ヲ缺ク等失格多シト雖モ多少共純良種ノ血液ヲ稟有スルノ種類ナルヲ以テ良種ノ血液ヲ注入シ体形ヲ改良スルト同時ニ早熟ノ性ヲ附加セハ良好ナルモノヲ得ル決シテ難キニアラサルヲ信ス

出品頭數及人員表

種類	用役	馬		羊		豚		合計
		乘用	競用	乳肉	肉計	蕃殖	肉計	
大阪府	出品頭數							
兵庫縣	出品頭數							
奈良縣	出品頭數							
京都府	出品頭數							
合計	出品頭數							
	出品人員							

第一回京攝府縣聯合家畜共進會規則

第一章 總則

第一條 本會ハ京都市ニ於テ京都、大阪、兵庫、奈良ノ二府二縣聯合シテ明治三十四年十月一日ヨリ

同月七日マテ七日間開設ス

第一回京攝府縣聯合家畜共進會規則

第二條 出品人ハ本籍寄留ヲ問ハス聯合府縣内ニ於テ牛馬羊豚ノ生産ヲ業トスル者又ハ牛馬羊豚ヲ飼養スルモノトシ其出品家畜ハ自家ノ生産ニ係ルモノ若クハ買受讓受後一ケ年以上ヲ經タル者ニシテ牛ハ二歳以上七歳以下馬ハ三歳以上八歳以下羊豚ハ六ヶ月以上ノ者ニ限ル

第三條 本會ノ出品ニ關係アリテ有益ト見認ムルモノハ生産ノ土地時代ノ新古ヲ問ハス標本圖書等ヲ參考トシテ出品スルコトヲ得

但形体巨大ナル者ハ豫メ本會ノ承認ヲ受クヘシ

第四條 左ニ掲クルモノハ出品スルコトヲ得ス

- 一 博覽會等ニ於テ褒賞ヲ受ケタルモノ
- 一 惡癖疾病アルモノ及狂暴ニシテ出品家畜ニ損害ヲ與フル虞アルモノ

第二章 出品

第五條 本會ノ出品ヲ分ツテ四部八區トス

- 第一部 牛
 - 第一區 運搬、耕用
 - 第二區 肉用
 - 第三區 乳用
 - 第四區 兼用
- 第二部 馬
 - 第一區 乘用、競走用
 - 第二區 耕用、運搬用

第三部 羊豚

- 第一區 乳用、毛肉用
- 第二區 肉用

第四部 參考品

牛、馬、羊豚、練乳、乾酪、牛酪、粉乳、牛臘、豚脂、牛羊豚罐詰、羊脂、燻腿、ベーコン、圖書器械類

第六條 出品セントスルモノハ別紙第一號書式ニヨリ出品目錄二通ヲ製シ明治三十四年七月十五日限

リ郡市役所ヲ經テ所轄府縣廳ニ届出ヘシ

第七條 前條目錄ハ所轄府縣廳ニ於テ調査シ其一通ハ八月三十一日迄ニ本會事務所ヘ送附スルモノトス

第八條 出品ハ明治三十四年九月三十日午後五時迄ニ搬入陳列スヘシ

但出品人特ニ陳列場裝飾ヲ爲スノ費用ハ各自ノ負擔トス出品家畜ハ裝飾スルコトヲ得ス

第九條 出品ハ本會ニ於テ相當保護ヲナスヘシト雖疾病變質其他避クヘカラサル事故ニ因リ損傷又ハ逸失シタルトキハ本會其責ニ任セス

第十條 家畜飼料ハ開會前日ヨリ閉會翌日迄本會所定ノ飼料ヲ給スト雖モ特別ノ飼料及増飼ヲナサントスルモノハ出品人ニ於テ其費用ヲ自辨スヘシ

第一回京攝府縣聯合家畜共進會規則

第十一條 出品人ハ豫メ本會ヨリ交付シタル入場鑑札ヲ携帯スヘシ

但他人ニ貸與スルコトヲ得ス

第十二條 出品人ハ本會事務所ヨリ付與スル處ノ小札ニ部類區類番號代價及出品人住所氏名ヲ記シ之ヲ揭示スヘシ

但非賣品ハ其旨標示スヘシ

第十三條 出品價格ハ一旦揭示シタル後ハ事務所ノ承認アルニアラサレハ變更スルコトヲ得ス
賣約濟ノモノハ直ニ約定濟ノ標札ヲ掲クヘシ

第十四條 賣約濟ノ出品ト雖モ閉場後ニアラサレハ搬出スルコトヲ許サス

第十五條 出品ノ家畜疾病ニ罹リタルトキハ直ニ病厩ニ移シ治療セシムヘシ

第十六條 出品物ニ對シ各自ノ費用ヲ以テ特別ノ看守人ヲ置クトキハ本會ノ承認ヲ請フヘシ

第十七條 出品家畜ハ閉會後二十四時間參考品ハ三日以内ニ引取ルヘシ

第三章 審査

第十八條 審査ハ明治三十四年十月一日ヨリ始メ同月四日迄ニ結了スルモノトス

但第四部出品ハ審査ヲナサス

第十九條 出品優等ノモノハ一等ヨリ六等ニ至ル等級ニ從ヒ褒賞ノ授與ヲ農商務大臣ニ請フモノトス

第二十條 一人ニシテ數部類ニ出品シ其出品優等ナルトキハ其部類ニ於テ各褒賞ヲ得ヘシト雖モ一部

類内數種ヲ出スモノ、賞品ハ其内優等ナルモノ一種ニ限ルヘシ

但一部類内ト雖モ種類ノ異ナルモノニシテ優等ニ位スルモノアルトキハ特ニ相當ノ賞狀ノミヲ授

與セラル、コトアルヘシ

第二十一條 出品人ハ出品ノ再審査ヲ請ヒ授與ノ褒賞ヲ拒ミ又ハ審査ノ決定ニ對シ異議ノ申立ヲナスコトヲ得ス

第二十二條 牛馬羊豚ノ改良蕃殖上特別ノ功勞アルモノニハ追賞又ハ功勞賞ヲ授與セラル、コトアルヘシ

第二十三條 褒賞授與式ハ明治三十四年十月六日午前第十時之ヲ行フ

第四章 參觀

第二十四條 本會開會中ハ毎日午前第九時ヨリ午後四時迄公衆ノ參觀ヲ許ス但入場料ヲ要セス

第二十五條 瘋癩又ハ醉狂其他妨害ノ虞アリト見認ムルトキハ入場ヲ拒絕シ或ハ場外ニ退去セシムル

コトアルヘシ

第二十六條 參觀人ハ荷物ヲ携帯シ又ハ畜類ヲ牽テ入場スルヲ許サス

第二十七條 出品ヲ購買セントスルモノハ府縣委員又ハ出品看守人へ申出ヘシ

第五章 事務

第一回京攝府縣聯合家畜共進會規則

第二十八條 會務整理ノ爲メ左ノ役員ヲ置ク

- 一 事務長 一名 一 審査長 一名 一 審査官 若干名
- 一 事務委員長 一名 一 事務委員 若干名 一 審査員 若干名
- 一 書記 若干名

第二十九條 事務長ハ主權府知事ヲ以テ之レニ充ツ

第三十條 事務長ハ本會一切ノ事務ヲ統理ス

事務長事故アルトキハ事務委員長ニ代理ヲ命スルコトアルヘシ

第三十一條 審査長及審査官ハ農商務大臣ニ派遣ヲ請フモノトス

第三十二條 審査長ハ審査ニ關スル規定ヲ設ケ審査事務ヲ統理ス

第三十三條 審査官ハ審査長ノ指揮ヲ受ケ出品審査ノ事務ヲ分掌ス

第三十四條 事務委員長ハ主權府書記官ヲ以テ之レニ充ツ

第三十五條 事務委員長ハ事務長ノ指揮ヲ受ケ會務ヲ調理ス

第三十六條 事務委員ハ聯合府縣ノ委員ヲ以テ之レニ充ツ

第三十七條 事務委員ハ事務委員長ノ指揮ヲ受ケ會務ヲ分掌ス

第三十八條 審査員ハ聯合府縣知事之ヲ撰定ス

第三十九條 審査員ハ審査長及審査官ノ指揮ヲ受ケ審査ヲ補助ス

第四十條 書記ハ事務長之ヲ撰任ス

第四十一條 書記ハ事務委員ノ指揮ヲ受ケ記録計算等ノ庶務ニ従事ス

第一號書式 (用紙半紙)

第何部 第何區 出品目錄

何府縣何郡市町村字何々何番戶

出品人 氏 名

種家	類畜	胤	種	用	役	血	統	產	地	育	成	地	賣	價
標	性	年	毛	尺	色	齡	何	歲	牡(割牛)牝					
徵	角	體	形	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何
特	角	體	形	短	角	何	何	何	何	何	何	何	何	何

第一回京攝府縣聯合家畜共進會規則

褒賞有無

現在畜養頭數及明治三十三年中生產又ハ飼養頭數

明治三十三年中販賣頭數及價額

右本會規則ヲ遵守シ出品致度候間此段御届申上候也

月 日

右

氏 名

第一回京攝府縣聯合畜産共進會御中

第貳號書式 (用紙半紙)

參考品目錄

何府縣何郡何市町村大字何何番戶

何 某

一何品又ハ何畜

右參考品トシテ出品候也

月 日

某 印

第一回京攝府縣聯合畜産共進會御中

褒賞一覽表

品名	一 等	二 等	三 等	四 等	五 等	六 等	計
京 都 府 牛 馬	二						二
京 都 府 山 羊							
京 都 府 豚 計							
大 阪 府 牛 馬	二						二
大 阪 府 山 羊							
大 阪 府 豚 計							
兵 庫 縣 牛 馬	一						一
兵 庫 縣 山 羊							
兵 庫 縣 豚 計							
奈 良 縣 牛 馬							
奈 良 縣 山 羊							
奈 良 縣 豚 計							
計	一	一	二	三	一		八

良 縣	
計	山 羊

二百九十八

1374/36

明治三十五年三月二十八日印刷
 明治三十五年三月三十一日發行

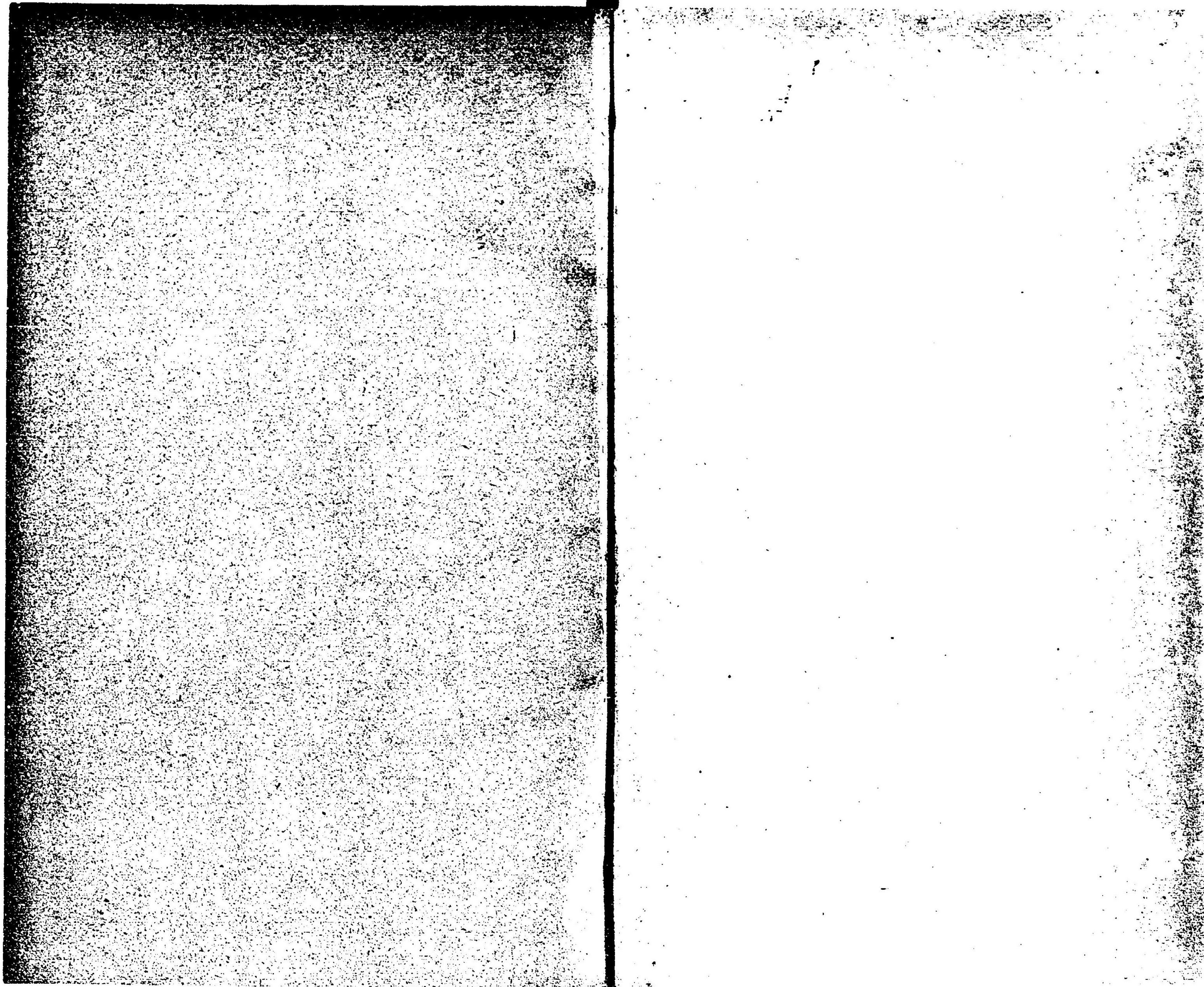
農商務省總務局人事課

印刷者 堀田道貫

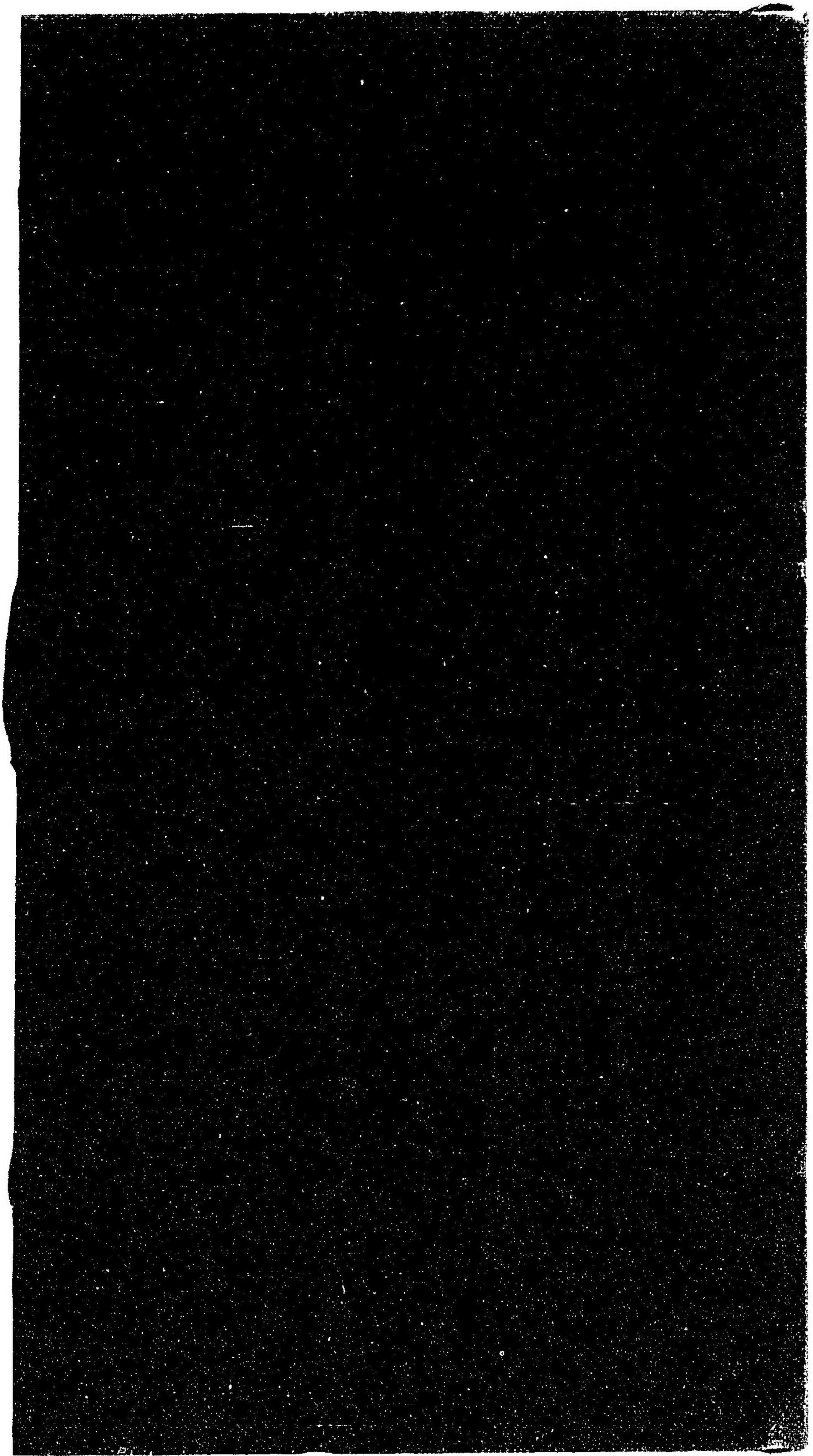
東京市京橋區山城町六番地

印刷所 堀田印刷所

全所 (電話番橋二七七番)



37
38



79

68-

